



「学問分野・領域を超えて」
他研究科・専攻科目、アドバンスト・リベラルアーツ科目群
を履修してみませんか



同志社大学の大学院研究科で学ぶ皆さんには、多様で柔軟な思考・発想を持つ人物、自身とは異なる価値観や文化背景を有する環境の中でもタフに活躍できる人物として、社会から大きな期待が寄せられています。

専攻する学問領域の知識に加え、隣接領域や異分野についても積極的に学修し、学問的知識を相対化、統合した上で活用する力が身につけば、その能力は今後ますます複雑化、高度化する社会において大きな強みとなり、皆さんの活躍の場はきっと広がっていくことでしょう。

そこで本学は、大学院生として必要な実践的な研究能力が身につく科目や隣接領域の知識を教授する科目など、所属の研究科・専攻を超えて履修することを推奨する科目を一覧にし、皆さんにご案内しています。

皆さんの積極的な履修を願っております。

2025 年 4 月 同志社大学 高等研究教育院

一部の科目は、所属研究科・専攻の修了単位として算入できない科目もあります。登録人数の制限がある科目については、科目登録手続き後に抽選等により人数を制限することをあらかじめご了承ください。

本件の問合せ先：同志社大学 高等研究教育院事務室（今出川校地致遠館 2F）
 （E-mail） ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp （Tel） 075-251-3259

分類表の読み方

実践・研究推進基礎：研究分野を問わず大学院生として必要な実践的研究能力を身につけさせる科目

教養・隣接：専門分野を深化させるために必要な周辺・隣接領域の幅広い知識・教養を教授する科目

融合・横断：領域を横断し「教養・隣接」以上に分野融合的に課題にアプローチし、発想の転換等を促す科目

合同・協働：領域・分野横断に加え、留学生、社会人学生らとの共修・協働により、国境、世代を超えて、他者や異文化を理解する科目

総合：上記 4 つの分類に直接該当しないが、他研究科・専攻生の履修を歓迎する科目

注意事項

一部の科目は、所属研究科・専攻の修了単位として算入できない科目もあります。

登録人数の制限がある科目については、科目登録手続き後に抽選等による人数制限をいたしますことをあらかじめご了承ください。

教室はDUETで確認し、教室の表示が無い場合は、科目提供元の研究科事務室で確認してください。

（「同志社大学 ナンバリング科目分類・略号表（科研準拠版）」を参考に系・分野・分科・細目の領域毎に掲載。）

系	分野	分科	細目	科目名	実践・研究	推進基礎	教養・隣接	融合・横断	合同・協働	総合	インデックス	
人文社会系	総合人文社会	地域研究		日中関係史論			○				1	
				近現代の中国			○				2	
				朝鮮文献研究					○	○	3	
	人文学	哲学	宗教学	ユダヤ教聖書解釈の諸相 1			○				4	
				ユダヤ教聖書解釈の諸相 2			○				5	
				ユダヤ史の研究演習 1			○				6	
				ユダヤ史の研究演習 2			○				7	
				宗教哲学1							○	8
				宗教哲学2							○	9
				新約聖書学概論 1					○		10	
				新約聖書学概論 2					○		11	
		文学	日本文学	日本文学特講Ⅲ			○				12	
				日本古典文学情報特論 1				○			13	
				日本古典文学情報特論 2				○			14	
		言語学			言語計算システム特論	○					15	
		社会科学	法学	公法学	憲法解釈研究			○				16
				社会法学	企業人事と労働法			○				17
					企業法務と労働法			○				18
	労働法演習Ⅰ 1						○				19	
	労働法演習Ⅰ 2						○				20	
	民事法学			信託法						○	21	
	政治学			政治過程 5（比較政治）						○	22	
				政治史 4（ヨーロッパ政治史 1）						○	23	
				地方自治論研究			○				24	
			国際関係論	国連とグローバルガバナンス				○		○	25	
	経済学		理論経済学	行動経済学	○	○	○				26	
				特講Ⅰ（行動経済学と共同体メカニズム 1）	○	○	○				27	
			経済学説・経済思想	経済学史		○	○	○			28	
				経済思想史		○	○	○			29	
			経済統計	基礎計量経済学	○	○					30	
				格差社会論	○	○	○				31	
			経済政策	文化経済学	○	○	○				32	
				グローバル化と格差問題		○					33	
	財政・公共経済		社会政策				○			34		

系	分野	分科	細目	科目名	実践・研究	推進基礎	教養・隣接	融合・横断	合同・協働	総合	インデックス	
人文社会系	社会科学	経済学	金融・ファイナンス	国際金融論		○					35	
				資本市場研究	○	○				36		
				金融経済教育	○	○				37		
			経済史	アジア経済史		○				38		
		経営学			起業論	○	○					39
		社会学	社会関係論		社会関係論		○	○				40
			現代社会論		現代社会論		○	○				41
			メディア認知論		メディア認知論			○				42
			社会ネットワーク論		社会ネットワーク論			○				43
			雇用政策論研究		雇用政策論研究	○	○					44
			計量社会学特論 1		計量社会学特論 1		○					45
			レイシズム研究		レイシズム研究		○					46
		心理学	社会心理学	実験社会心理学特論		○						47
			教育・発達心理学	学校心理学特論		○						48
			実験心理学	学習心理学特論							○	49
		教育学			比較教育文化論特講Ⅰ					○		50
					比較教育文化論特講Ⅱ					○		51
		政策学			消費者政策研究		○					52
理工学系	総合理工	ナノ・マイクロ科学		専攻共通特殊講義（ナノテクノロジー）		○					53	
	数物系科学	物理学	数理物理・物性基礎	自己組織化の科学特論						○	54	
			生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	環境生理学特講	○		○	○		55		
	化学	基礎化学	有機化学	有機合成特論						○	56	
		複合化学	合成化学	応用化学特論				○			57	
			生体関連化学	バイオテクノロジー特論				○			58	
	工学	機械工学	機械材料・材料力学	熱流体工学特論		○					59	
生物系	総合生物	神経科学		神経科学入門	○						60	
	生物学	生物科学	生物物理学	生物物理学特論				○			61	
	医歯薬学	社会医学	疫学・予防医学	公衆衛生学特講		○					62	
総合系	情報学	情報学基礎	統計科学	多変量解析特別演習	○						63	
				多変量解析特論	○						64	
				経済統計学特論		○					65	
				ベイズ統計学特論		○					66	
		人間情報学	認知科学	認知システム研究法特論 1		○					67	
		情報学フロンティア	生命・健康・医療情報学	サイエンスコミュニケーション特論Ⅰ		○	○	○			68	
				サイエンスコミュニケーション特論Ⅱ		○	○	○			69	
	環境学	環境創成学		専攻共通特殊講義（資源・エネルギー学）		○	○				70	
	複合領域	renkei	社会システム工学・安全システム	専攻共通特殊講義（リスクマネジメント）		○					71	
				専攻共通特殊講義（安全工学 1）		○					72	
				専攻共通特殊講義（安全工学 2）		○					73	
				専攻共通特殊講義（安全安心実習）		○					74	
				人間医工学	医用システム	医用画像システム特論	○					
		健康・スポーツ科学	スポーツ科学	身体運動制御論特講			○					76
				スポーツ心理学特講		○					77	
				スポーツ運動学特講				○	○		78	
		脳科学		研究安全と倫理	○						79	
		先端領域・現代の諸問題			赤ちゃんを科学する				○			80

1

31800120-000 日中関係史論 講義 今出川 春 木・2 日本語
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ 専攻 村田 雄二郎

<概要/Course Content Summary>

19世紀末から今日に至る近現代の日中関係史を、日本と中国双方で書かれた原典（おもに評論や旅行記など）を通じて学ぶ。日本人の中国認識、中国人の日本認識がそれぞれどのように交差し、またすれ違ったのか、双方が構築した他者像は自己像といかに関わっていたのか、さらに、日中の知識人の関心や論点はいかに推移したのか、などを大きく5つの段階に分けて論じていく。授業は講義を軸に、受講者による報告や討論も交えながら進める。テキストは日本語のものをを用いるので、古典・現代中国語の能力は必要としない。

<到達目標/Goals,Aims>

近現代の日中関係史に関する基本的な理解を深めるとともに、メディアで日々接する膨大な各種中国「情報」を自らの頭で分析・評価する思考力を鍛え、複雑に展開する今後の日中関係を考える上での基本的視座を獲得する。

<担当者からのメッセージ/Message>

歴史や国際関係論に関心のある学生。近現代の日本史、世界史の基礎知識があることが望ましいが、必須ではない。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

2

31800121-000 近現代の中国 講義 今出川 秋 木・2 日本語
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ 専攻 村田 雄二郎

<概要/Course Content Summary>

「本講義では、人物史を軸にした中国近現代史研究の最新成果を学びながら、「世界史の中の中国」という視座から、研究の論点や課題を整理し議論を深めたい。近現代史の起点を取って早期近代（近世）に置き、長期的スパンの歴史理解にも取り組む。具体的には、近刊の『アジア人物史』全12巻（集英社、2022年12月～2024年4月）の中から、中国に関わるいくつかの人物群（クラスター）を取り上げ、受講生による報告と討論を行う。扱う人物は、受講生の興味と関心にもとづき決めてゆく。」

<到達目標/Goals,Aims>

中国近現代史に関する基本的な理解を深めるとともに、長期的な時間幅で中国の政治や社会を理解する作法を習得し、メディアで日々接する膨大な各種中国「情報」を自らの頭で分析・評価する思考力を鍛える。

<担当者からのメッセージ/Message>

東アジアの近代史について興味のある学生。基礎知識は問わない。現代漢語の能力はとくに必要としない。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

3

31800125-000 朝鮮文献研究 講義 今出川 春 火・5 コリア語・日本語
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ 専攻 太田 修

<概要/Course Content Summary>

朝鮮近現代に関連する資料を読解する。前半は、日本の植民地から解放された後の在日朝鮮人関連資料（日本語）をとりあげ、歴史資料の読み方、論じ方を鍛える。後半は、各受講者が自身の研究テーマに関連するいくつかの歴史資料を選び、それを読解し、整理して発表する。朝鮮近現代を研究テーマとしない人でも、資料の読解の仕方について学べるようにし、参加を歓迎する。

<到達目標/Goals,Aims>

朝鮮近現代に関連する資料を読解し、その内容について論じることができるようになる。または、近現代の資料を読解し、その内容について議論できるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

日本語およびコリア語の歴史資料の読解に興味がある学生。コリア語が読めることが望ましい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

4

30153401-000 ユダヤ教聖書解釈の諸相Ⅰ 講義 今出川 春 金・2 日本語
神学研究科 神学専攻 勝又 悦子

<概要/Course Content Summary>

一神教の祖であるユダヤ教は偶像崇拜、魔術、呪術的行為を否定するが、その正統派ユダヤ教の基盤を形成したラビ・ユダヤ教においてすでに、呪術、魔術すれすれの行為、奇蹟行為、癒しの行為、神秘的な体験がみられる。これらは、中世以降、その思想が理論化されるカバラー（ユダヤ神秘主義）の萌芽ともなった。前期では、タルムードなどのラビ・ユダヤ教文献にみられる秘儀的思索、魔術的行為の萌芽を探る。正統派ユダヤ教のただ中で、相反する力が作用するのはなぜか。人は、魔術的、偶像的なもの、奇蹟的なものを求めるものなのか。具体的なテキストを読解しながら考察する。他方で、カバラーが「伝統」なるものに根差していることも理解する。第12回―14回は、学生が各自興味をもった内容を発表する。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が、ユダヤ教文献の仕組みを理解し、扱うことができるようになり、ラビ・ユダヤ教時代の神秘主義的思索の萌芽がみられることを理解できるようになること（知識・技能）。また、様々なユダヤ教文献を読み込み、思考し、自分の見解を論理的に表現できるようになること（表現力）。また、主体的に自分の研究を進め、他者の多様な見解、助言を取り入れて協同的しながら思索を進めることができるようになる（主体性・多様性・協働性）。

<担当者からのメッセージ/Message>

ユダヤ教やユダヤ人に限らず、様々な宗教、多様な価値観に関心のある学生、文献を読み解くことに関心のある学生の参加を求めています。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

30153402-000 ユダヤ教聖書解釈の諸相2 講義 今出川 秋 金・2 日本語

神学研究科 神学専攻 勝又 悦子

<概要/Course Content Summary>

本講義ではユダヤ教伝統における奇跡や超自然的な現象に関わるテキストを読み進める。ユダヤ教においては、預言も天の声も第二神殿時代において終焉したと考える。そのような伝統の中で、奇跡的な事柄はどのように捉えられてきたのかをさぐる。中世、近現代のユダヤ教思想において、「奇跡」それらに対する態度を読み解く。後半は、神秘主義（カバラ）における『創造の書（セフェル・イエツィラー）』の精読を進める。『創造の書』には、カバラの基幹となるセフィロートの概念、文字のもつ創造力の理念が盛り込まれている。G. ショーレムの議論を参考にしつつ、実際に『創造の書』のテキストを精読し、その内容の理解を図る。第14回は、出席した学生が各自関心のあるテーマを発表する場とする。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が、ユダヤ教文献の扱い方を理解できるようになること。G. ショーレムの議論を理解すること（知識・技能）。カバラの中心的書である『ゾーハル』『創造の書』を扱えるようになること（知識・技能）。ユダヤ教文献の資料を読みこみ、自分の見解を表現できるようになる（思考力・判断力・表現力）。主体的に学習を進め、他者との意見交換の中で多様な見解を取り込み協働しながらユダヤ教聖書解釈の多面性を理解することができるようになること（主体性・多様性・協働性）。

<担当者からのメッセージ/Message>

ユダヤ教やユダヤ人に限らず、様々な宗教、多様な価値観に関心のある学生、文献を読み解くことに関心のある学生の参加を求めています。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

30153421-000 ユダヤ史の研究演習Ⅰ 演習 今出川 春 月・3 日本語

神学研究科 神学専攻 勝又 悦子

<概要/Course Content Summary>

本演習は、エルサレム第二神殿時代末期からタルムード成立、中世までのユダヤ教時代の生活の諸相を文献、考古学資料、美術資料等を基に再構成することを目的とする。本年度の春学期は、ユダヤ教伝統の中核となる法律集『ミシュナ』の中でも大きな部分を占める清浄規定を主題とする。『ミシュナ』における占有量より清浄規定は、タナイーム時代（紀元前後—200年まで）のユダヤ教生活の基盤にあったと考えられるが、十分に検証されることはなかった。さらに、ユダヤ教が「清浄規定」にこだわりを有することは、「律法主義」批判の立場から古来より批判の対象となってきた。しかし、何を「穢れ」と考えているのか、なにゆえに清浄規定が重要であったのかを当事者の立場にたって理解することは、他者理解、様々な価値観の理解において重要である。本演習では、『ミシュナ』における清浄規定部分の中でも、日常生活にかかわりの深い、ケリーム（器、食器、容器の清浄問題）、ネガイーム（皮膚病）、ヤダِيم（手の清浄）の篇を精読する。ヘブライ語原典に即して理解しラビ・ユダヤ教における穢れの体系を構造化したい。第13週—第14週は、各自の関心事を個別発表する。シナゴグの礼拝の参加などのフィールド・ワークも予定している。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が、エルサレム第二神殿崩壊後のユダヤ教の歴史を理解し、ラビ・ユダヤ教文献を適切に分析し考察することができるようになること（思考力・判断力）。また、分析した結果を口頭発表やレポートとして表現することができるようになること（表現力）。議論をすることができるようになること。また、学生が、ラビ・ユダヤ教文献を精読することができるようになること。自分が設定した問題関心について、主体的に研究を進め、他者との議論を通して協働しながら、多様な視点を生かして自分の研究を深めることができるようになること（主体性・多様性・協働性）。

<担当者からのメッセージ/Message>

ユダヤ教やユダヤ人に限らず、様々な宗教、多様な価値観に関心のある学生、文献を読み解くことに関心のある学生の参加を求めています。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

30153422-000 ユダヤ史の研究演習Ⅱ 演習 今出川 秋 月・3 日本語

神学研究科 神学専攻 勝又 悦子

<概要/Course Content Summary>

秋学期は、前半は、清浄規定の中でも、疾病、性、死に関する清浄規定について考える。ミシュナの、オホロート（天幕の中の遺体）、ニッダー（月経の穢れ）、ザヴィーム（漏出の穢れ）の篇を精読する。後半は、S. サフライ・M. シュテル編『総説ユダヤ人の歴史（下）』の中で引用されるラビ文献の原典資料を精読し、第二神殿時代以降のユダヤ教社会の実生活の中で、清浄規定がどのように運用されていたのかを考察する。また、食器類、ミクヴェ（沐浴場）、入浴場等の考古学資料も参照し、生活の諸相を再構成する。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が、エルサレム第二神殿崩壊後のユダヤ教の歴史を理解し、ラビ・ユダヤ教文献を適切に分析し考察することができるようになること（思考力・判断力）。また、分析した結果を口頭発表やレポートとして表現することができるようになること（表現力）。議論をすることができるようになること。また、学生が、ラビ・ユダヤ教文献を精読することができるようになること。自分が設定した問題関心について、主体的に研究を進め、他者との議論を通して協働しながら、多様な視点を生かして自分の研究を深めることができるようになること（主体性・多様性・協働性）。

<担当者からのメッセージ/Message>

ユダヤ教やユダヤ人に限らず、様々な宗教、多様な価値観に関心のある学生、文献を読み解くことに関心のある学生の参加を求めています。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

8

30133231-000 宗教哲学Ⅰ 講義 今出川 春 木・3 日本語

神学研究科 神学専攻 三宅 威仁

<概要/Course Content Summary >

「宗教哲学」は宗教的諸信念の哲学的反省、即ち信仰内容を理性によって分析・検証・評価する学の意味にも、宗教の本質の哲学的省察、即ち宗教一般の本質的特徴を啓示に頼らず理性のみによって把握する学の意味にも用いられてきた。本講では「宗教哲学」を前者の意味に解し、この学問分野において伝統的に取り扱われてきた「神の存在証明」「神の属性」「悪」「靈魂の不死」「自由意志」「奇跡」「宗教的多元主義」などのトピックを検討する。

<到達目標/Goals,Aims>

宗教哲学の基礎的な研究課題や分析概念、方法論や理論が修得できる。

<担当者からのメッセージ/Message>

一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）において信仰されている諸教義を理性的に検証することによって宗教をより深く理解したい学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

9

30133232-000 宗教哲学Ⅱ 講義 今出川 秋 木・3 日本語

神学研究科 神学専攻 三宅 威仁

<概要/Course Content Summary >

「宗教哲学」は宗教的諸信念の哲学的反省、即ち信仰内容を理性によって分析・検証・評価する学の意味にも、宗教の本質の哲学的省察、即ち宗教一般の本質的特徴を啓示に頼らず理性のみによって把握する学の意味にも用いられてきた。本講では「宗教哲学」を後者の意味に解し、現代的な立場から宗教一般の本質的特徴を理性的に把握することを試みる。その際、狭義の哲学にはこだわらず、宗教学や他の隣接諸学において築き上げられてきた代表的な理論も手掛かりとしながら、特に宗教の中核を成すと言われる「聖なるもの」の理解に努める。

<到達目標/Goals,Aims>

近現代の多様な思想家の宗教観が理解できる。

<担当者からのメッセージ/Message>

特定の啓示を前提とせず、理性の立場から宗教一般の本質的特徴（構成要素や機能など）を探究することによって宗教をより深く理解したい学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

10

30113011-000 新約聖書学概論Ⅰ 講義 今出川 春 火・2 日本語

神学研究科 神学専攻 村山 盛葦

<概要/Course Content Summary >

キリスト教の正典である『聖書』は一冊の単行本ではなく、66の文書からなる合本です。そのひとつである「マタイ福音書」は、ユダヤ教とキリスト教の関係を考える上でとても重要な歴史的資料です。本講義では、聖書学の方法論を用いながら、「マタイ福音書」の神学的主張や文芸的特徴を考察します。また、紀元後1世紀末の歴史的状況（70年エルサレム神殿崩壊、ラビ・ユダヤ教の台頭など）を視野に入れながら「マタイ福音書」の共同体の状況も分析します。

<到達目標/Goals,Aims>

聖書学（歴史批評）を用いながら、キリスト教の正典を分析し理解することができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

歴史的に『聖書』や初期キリスト教を理解したい学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

11

30113012-000 新約聖書学概論Ⅱ 講義 今出川 秋 火・2 日本語

神学研究科 神学専攻 村山 盛葦

<概要/Course Content Summary >

キリスト教の正典である『聖書』は一冊の単行本ではなく、66の文書からなる合本です。そのひとつである「第一コリント書」は、キリスト教とこの世の関係を考える上でとても重要な歴史的資料です。本講義では、聖書学の方法論を用いながら、「第一コリント書」の内容を理解し、紀元後1世紀の初期キリスト教会の諸問題およびパウロの神学思想を考察します。特に10のテーマに焦点を当てて（下記参照）、コリント教会の文化的・社会的・政治的背景を分析します。

10のテーマ：党派、文化的理想、性的不道徳、結婚・独身制、多神教の祭儀、女性の役割、聖餐式（宗教儀式）、礼拝活動、復活信仰、献金。

<到達目標/Goals,Aims>

聖書学（歴史批評）を用いながら、初期キリスト教を分析し理解することができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

歴史的に『聖書』や初期キリスト教を理解したい学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

12

30206203-000 日本文学特講Ⅲ 講義 今出川 秋 木・2 日本語

文学研究科 国文学専攻 植木 朝子

<概要/Course Content Summary >

『宗安小歌集』を読む 中世小歌は、室町後期、広い階層で愛唱された流行歌謡である。本講義では、小歌の三つの集成のうち『宗安小歌集』を主なテキストとして一首一首を丁寧に読み、他ジャンルの文芸と比較しつつ、小歌の特質を探る。そして、小

歌の面白さ、新しさとはいかなるものであったのかについて考察する。

<到達目標/Goals,Aims>

文学史においてはあまり重要視されてこなかった中世小歌について、その特徴と魅力を学び、室町後期という時代の特徴を探る方法を身につける。

<担当者からのメッセージ/Message>

日本の古典文学や古典芸能に興味のある学生。高校3年生レベルの古典の基礎知識があることが望ましいが、必須ではない。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

13

30810011-000 日本古典文学情報特論Ⅰ 講義 京田辺 春 金・2 日本語

文化情報学研究科 文化情報学専攻 福田 智子

<概要/Course Content Summary >

『古今和歌集』や『伊勢物語』『源氏物語』『百人一首』などの日本古典文学作品は、筆に墨をつけて書いた写本で伝わる。そうすると、転写の過程で、さまざまな本文異同（本文の違い）が生じることがある。本授業では、それらの文学作品の複数の伝本（現在まで伝わってきた本）を、独自に開発した文字列解析ツールを用いて校合（他の本と照らし合わせて文字の相違をチェックすること）し、本文系統をめぐるさまざまな文献学的問題点を見出し、文学的意味づけを試みる。キーワード：国文学・校本・変体仮名・表記情報・情報科学・データマイニング・データベース。

<到達目標/Goals,Aims>

変体仮名（いま使用されているものとは異なった字体の仮名）を読むことができる。また、情報科学の技術を人文系コンテンツの分析に利用する方法を知り、新たなツール開発への発想を得る。

<担当者からのメッセージ/Message>

受講にあたって必要な能力や基礎知識はとくにない。日本古典文学に興味を持つ学生と、情報科学に興味をもつ学生とを結びつける場にしていきたいと考えている。個々の学生が、自らの興味と得意分野を持ち寄ることで、あらたな学問領域を設定できるのではないかな。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

14

30810012-000 日本古典文学情報特論Ⅱ 講義 京田辺 秋 金・2 日本語

文化情報学研究科 文化情報学専攻 福田 智子

<概要/Course Content Summary >

『古今和歌集』や『伊勢物語』『源氏物語』『百人一首』などの日本古典文学作品は、筆に墨をつけて書いた写本で伝わる。そうすると、転写の過程で、さまざまな本文異同（本文の違い）が生じることがある。本授業では、それらの文学作品の複数の伝本（現在まで伝わってきた本）を、独自に開発した文字列解析ツールを用いて校合（他の本と照らし合わせて文字の相違をチェックすること）し、本文系統をめぐるさまざまな文献学的問題点を見出し、文学的意味づけを試みる。キーワード：国文学・校本・変体仮名・表記情報・情報科学・データマイニング・データベース。

<到達目標/Goals,Aims>

変体仮名（いま使用されているものとは異なった字体の仮名）を読むことができる。また、情報科学の技術を人文系コンテンツの分析に利用する方法を知り、新たなツール開発への発想を得る。

<担当者からのメッセージ/Message>

受講にあたって必要な能力や基礎知識はとくにない。日本古典文学に興味を持つ学生と、情報科学に興味をもつ学生とを結びつける場にしていきたいと考えている。個々の学生が、自らの興味と得意分野を持ち寄ることで、あらたな学問領域を設定できるのではないかな。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

15

30820009-000 言語計算システム特論 講義 京田辺 春 水・3 日本語

文化情報学研究科 文化情報学専攻 星 英仁

<概要/Course Content Summary >

言語表現がどのように計算システム内で生成され、発話・意味解釈がおこなわれているのかということについて、統語論の観点から解説する。

<到達目標/Goals,Aims>

統語論の基礎知識が身につく、身近な言語現象を分析できるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

この講義では、言語の知識とは何か、その知識はどのように獲得され、脳内でどのように具現し、進化してきたのかという「生物言語学」(Biolinguistics) の問題の一部に取り組み、担当者が全て講義をします。このような言語の根本的な問題に興味があり、サマリーペーパーや squibs を書く準備と心構えがあれば受講可能です。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

16

30770034-000 憲法解釈研究 講義 今出川 春 火・4 日本語

総合政策科学研究科 総合政策学専攻 大島 佳代子

<概要/Course Content Summary >

本講義は、最高裁判所が下した違憲判決の検討を通して、法の下での平等、経済的自由権、精神的自由権（とくに政教分離原則）、参政権などの人権について考察する。また、日本国憲法の下での違憲審査制や訴訟形態について学び人権保障のあり方についても検討する。加えて、違憲とされた法律の条文等の後始末の仕方（違憲とされた法律の条文は「無効」となるが、それは当然その条文の「削除」を意味しない）を立法政策の観点から考える。

<到達目標/Goals,Aims>

学生は本講義を通じて、憲法の専門的知識を獲得することができる。また、素の判決文を読むことで、長文を読みこなすことができるようになる。判決文から、当事者の主張、それに対する裁判所の判断を、各々の違いが分かるように正しく読み、それらをまとめることができるようになることで、法的に物事を理解するための基礎力を獲得できる。

<担当者からのメッセージ/Message>

公務員、教職志望者の受講を歓迎します。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名程度

17

30305938-000 企業人事と労働法 講義 今出川 春 水・2 日本語

法学研究科 私法学専攻 土田 道夫

<概要/Course Content Summary>

本科目は、企業人事と労働法をめぐるテーマに関する共同研究を行い、問題発見能力と解決能力を習得させることを目標とする。経済社会の変化に伴い、企業人事においては、労働法の重要性が高まっている。「法の支配」とコンプライアンスの重要性が叫ばれ、労働契約法をはじめとする多くの労働立法の制定・改正が相次ぐ中、企業の人事管理においては、労働法に関する十分な知見が必須となっている。また、国際的人事管理を見ても、法の適用に関する通則法や、外国等に対する我が国の民事裁判権に関する法律においては、労働契約に関する特別規定が置かれ、労働法についての知見が重要となっている。さらに、労働法コンプライアンスを徹底し、労働法 CSR を実行すること（成果主義人事の適正な運営、雇用平等の推進、従業員のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス支援等）は、優秀な人材を確保し、顧客・投資家・取引先へのアピールを高め、企業価値を高める戦略（戦略法務）となりうる。こうして今日、労働法は企業法（Business Law）の一環を形成し、企業人事のキャリアを志望する者にとって重要な領域となりつつある。このことは、2018年の働き方改革推進法の制定や、2020年のパワー・ハラスメント防止措置義務の立法化等の動向からも明らかであろう。さらに、2020年の新型コロナ禍に伴い、テレワーク、ジョブ型雇用など、企業人事と労働法をめぐる新たなテーマが多数登場している。

本科目は、こうした観点から、広く企業で働くことを目指す受講者を対象に、多くの先端的論点を取り上げ、理論・実務の両側面から企業人事・法務能力を養成することを目指す。ケーススタディを多用し、演習方式で進める予定である。以下の授業計画は例示であり、実際の授業進行に際しては、受講者の希望に沿って行いたいと考える。

なお、例年、同志社大学大学院法学研究科を修了し、実際に企業人事の仕事に携わっているOB/OGにゲスト・スピーカーとして登場いただいている。

<到達目標/Goals,Aims>

学生は、本演習を受講することにより、企業人事と労働法をめぐる基本能力を養うとともに、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を養成することができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

人事管理論、企業人事部門への就職、「働き方改革」、労働法（労働契約法・労働基準法・男女雇用機会均等法など）に関心のある学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

18

30305939-000 企業法務と労働法 講義 今出川 秋 水・2 日本語

法学研究科 私法学専攻 土田 道夫

<概要/Course Content Summary>

企業法務と労働法をめぐるテーマに関する共同研究を行い、問題発見能力と解決能力を習得することを目指す。経済社会の変化に伴い、企業法務と労働法が交錯するケースが増えている。企業組織の再編・M&A、知的財産管理、企業間契約管理、国際法務、企業情報・個人情報管理、倒産法務においては、それぞれ、労働法と会社法・知的財産法・民法・国際私法・情報法・プライバシー法・倒産法が関連し、交錯する。本科目では、こうした観点から、企業法務部門を目指す受講生を対象に、理論・実務の両側面から企業法務能力を修得することを目指す。具体的事例（ケーススタディ）を用いて実践的能力の養成を行う。2019年度に取り上げたテーマは、事業譲渡・会社分割、株式取得型M&A、コーポレート・ガバナンス、不正競争防止法・守秘義務、競業禁止義務、職務発明・職務著作、国際的労働契約における準拠法の決定、約款規制と就業規則、企業情報管理等々である。

<到達目標/Goals,Aims>

受講生は、本科目を履修することにより、企業法務と労働法をめぐる基本能力を養うとともに、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、ディベート能力、問題発見・解決能力を養成することができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

企業法務部門への就職、労働法、企業法（会社法・知的財産法・国際私法・倒産法など）に関心のある学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

19

30335551-000 労働法演習ⅠⅠ 講義 今出川 春 火・5 日本語

法学研究科 私法学専攻 土田 道夫

<概要/Course Content Summary>

労働法に関する重要判例を取り上げ、受講生の法的思考能力を養成することを目指す。最新の労働判例の中から、重要な論点を提起するものや、先端的論点に関するものを選択し、演習形式で共同研究を行う。

<到達目標/Goals,Aims>

受講生は、本科目を履修することにより、判例・裁判例を批判的に検討しつつ、法律実務能力を養成することができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

労働法・労働判例に関心のある学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名以内

3033552-000 労働法演習Ⅰ 2 講義 今出川 秋 火・5 日本語

法学研究科 私法学専攻 土田 道夫

<概要/Course Content Summary>

労働法に関する重要判例を取り上げ、受講生の法的思考能力を養成することを目標とする。最新の労働判例の中から、重要な論点を提起するものや、先端的論点に関するものを選択し、演習形式で共同研究を行う。

<到達目標/Goals,Aims>

受講生は、本演習を受講することにより、判例・裁判例を批判的に検討しつつ、法律実務能力を養成することができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

労働法・労働判例に関心のある学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5 名以内

61200608-000 信託法 講義 今出川 秋学期 水・6 日本語

司法研究科 法務専攻 佐久間 毅

<概要/Course Content Summary>

本講義は、公益財団法人トラスト未来フォーラムによる寄付講座として開講されるものである。

信託制度の社会的重要性が増し、法律実務家にとって信託制度及び信託法を理解しておく必要性が高まっている。そこで、信託に係る法律関係の処理、信託の実務利用等に携わるための基礎となる知見を獲得させることを目指し、信託制度及び信託法を概説する。信託は受講生の多くにとって馴染みの薄い制度と思われるため、実例を数多く挙げ、民法、会社法等の類似の制度との異同又は関連性を強く意識して解説する。また、信託の法務または実務に現に携わる実務家をゲストスピーカーに招き、現在の社会における信託制度と信託法の意義を知る契機とする。

<到達目標/Goals,Aims>

受講者が、信託という制度とそれに関する法、実務の概要を理解し、将来自ら信託を利用し、または信託の関係当事者となる場合の基礎知識を得ることを目標とする。

<担当者からのメッセージ/Message>

社会における様々な問題の克服に役立ちうる実践的制度に関心を有する者であれば、誰でも受講を歓迎する。受講に際して、民法及び会社法等の私法に関する基本知識を有していることが望ましいが、必須ではない。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10 名

30315035-000 政治過程5（比較政治） 講義 今出川 秋 金・2 日本語

法学研究科 政治学専攻 カ久 昌幸

<概要/Course Content Summary>

2023年に、日本のGDP（国内総生産）はドイツに抜かれて世界4位となり、一人あたりGDPではG7（先進7カ国）で最低の7位になると見られていました。このように、昨今、日本の凋落と貧困化について関心が持たれていますが、日本という国の長い歴史の中で見た場合、現在の経済状況は100年前や200年前と比べるとはるかに豊かであることに異論はないでしょう。一方、目を世界に転じてみると、欧米や日本など一部の先進国において多くの人が豊かな生活を享受していますが、アジアやアフリカなどでの発展途上国では日々の生活において貧困と暴力に直面する人々が少なくありません。また、先進国においても失業者やホームレスなどが直面する貧困は、決して珍しいものではないと言うことができます。

しかし、いまだに世界中で貧困が存在するとはいえ、歴史的に見た場合、いま世界の中で生きている人々の大半は数百年前に生きていた人々よりもはるかに裕福な生活を送っています。誇張して言うならば、現在の世界はかつて見られなかったほど、著しく豊かな時代を迎えていると言っても過言ではありません。

20世紀から21世紀初頭にかけて世界が豊かになるにつれて、ますます多くの人が貧困から抜け出すことになりました。果たして、21世紀の残りの期間において、世界に残っている貧困が解消される楽観的なシナリオを描くことができるのでしょうか。

そこで、今年度の授業では、『「経済成長の起源」：豊かな国、停滞する国、貧しい国』というタイトルのテキストを講読することにより、世界はどのようにして豊かになったのか、という問いについて受講者とともに考えていきたいと思います。もちろん、社会科学上の大問題である経済的な豊かさをもたらす要因について、正答が一つに限られるわけではないことは自明のように思われますが、歴史的に見てみると、持続的な経済成長が始まるかたわらでは、共通して見られる複数の要因が関連している傾向が確認されています。こうした要因がどのような場合に経済成長を促し、どのような場合に経済成長に寄与しないのか、テキストの講読を通じて多角的・総合的な理解を深めていきたいと思います。

なお、受講者と相談のうえ、国家の盛衰や経済成長に関連する英語文献を講読することも考えています。

<到達目標/Goals,Aims>

持続的な経済成長を実現した歴史的事例をもとにして、経済成長をもたらす複数の要因の関連について一定の理解を持つようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

政治学に関する基本的な概念や理論について学習し、ある程度の基礎知識を持っている学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 若干名

30315044-000 政治史4（ヨーロッパ政治史Ⅰ） 講義 今出川 春 金・2 日本語

法学研究科 政治学専攻 カ久 昌幸

<概要/Course Content Summary>

近年、欧米諸国を中心として世界各地で自国民優先を掲げる政治が勢力を増す傾向が見られるようになり、社会の中で新たな亀裂や分断が深刻化しているようです。また、特定の政治指導者が移民や難民などマイノリティの集団を非難し、対立をあおりな

がらマジョリティの集団から支持を拡大する現象も多く見られるようになっていきます。こうした状況が進展する中で、政党の変質や政党政治の衰退が語られるようになり、従来までの政治のあり方を続けていたのでは社会の統合が困難になりつつあるようにも見えます。

以上のような近年の政治や社会の動きに触発されて、2000年代以降の政治学においては、ポピュリズムの広まりやナショナリズムの再興がさまざまな研究者によって多様な形で議論され、多くの研究書や学術論文が発表されています。特に、ヨーロッパを主な研究対象として取り上げ、ポピュリズムの動向について分析した研究が注目されますが、その中でも、ヨーロッパにおいてEUを中心として統合が進展する一方で国民国家へと向かうベクトルが強まっていることに着目し、「再国民化」という観点からヨーロッパ諸国の政治を分析する研究について関心が集まっています。

そこで、今年度の授業では、『ポピュリズム、ナショナリズムと現代政治：デモクラシーをめぐる攻防を読み解く』というタイトルのテキストを講読することにより、先進国における政治と社会の変化を概観したうえで、多様な議論が見られるポピュリズム、ナショナリズム、デモクラシーの概念を整理して、欧米諸国や日本など先進国の政治が抱える問題の特質を理解し、そうした問題に対する対処の方向性を見いだすための検討を行っていきたいと思います。

なお、受講者と相談のうえ、ポピュリズム、ナショナリズム、デモクラシーに関連する英語文献を講読することも考えています。

<到達目標/Goals,Aims>

ポピュリズム、ナショナリズム、デモクラシーの概念を整理して、先進国の政治が抱える問題の特質を理解し、そうした問題に対する対処の方向性を見いだすための検討に取り組むことができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

政治学に関する基本的な概念や理論について学習し、ある程度の基礎知識を持っている学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 若干名

24

30770042-000 地方自治論研究 講義 今出川 春 金・6 日本語

総合政策科学研究科 総合政策科学専攻 野田 遊

<概要/Course Content Summary>

人口減少、財政難、政策課題の山積の中、地方自治体をどのように運営するのが望ましいか。そもそも日本の自治のどこが問題であるのか。授業では、市民の自治意識と地方自治体の効率的かつ民主的な運営について深く学ぶ。このため、はじめに自治意識や公共空間に関する議論からはじめ、自治体議会、組織、税財政、市民ニーズ、政策（立案・決定、実施、評価）、広報、協働、広域連携、府県と市町村の関係、府県と府県の関係、今後の地方自治体のあり方について理解を深める。

<到達目標/Goals,Aims>

- ・自治意識と自治体運営との関係について深く理解する。
- ・自治体運営の価値基準に基づく自治体運営の方法について深く理解する。

<担当者からのメッセージ/Message>

地方自治や地方の政治、行政、活性化に関心のある学生。公務員志望や政治家を志す学生も歓迎。行政学や政治学の知識があるのが望ましいが必須ではない。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

25

31800143-000 国連とグローバルガバナンス 講義 今出川 春 木・3 英語

グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ 専攻 中西 久枝

<概要/Course Content Summary>

This course will offer the fundamentals of cyberspace governance and its implications for peace and security in the United Nations and other international institutions. In particular, this course will shed light on how the so-called hybrid warfare has been waged globally, and the way cyber attacks and cyber warfare have emerged as the new security issues. By so doing, the students will learn the applicability and non-applicability of the existing international laws such as International Humanitarian Law and International Law of Armed Conflict to cyber warfare that is linked with hybridity of conventional and cyber warfare.

<到達目標/Goals,Aims>

Through the use of practical examples, the course aims to illustrate the purpose and practices of global governance today, with a central focus on global governance in the cyber security contexts.

Students are expected to demonstrate knowledge of the workings of the global governance system and, through the use of case studies, be able to form well-reasoned assessments of the challenges that the global society has faced.

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

26

30403111-000 行動経済学 講義 今出川 春 火・1 日本語

経済学研究科 理論経済学専攻 大垣 昌夫

<概要/Course Content Summary>

本講義では行動経済学の理論的な基礎と、行動経済学で用いられるアンケートや実験などの基礎的な実証研究方法の基礎を学習する。行動経済学は伝統的経済学で仮定されてきた経済人の仮定を、アンケート調査や実験などのさまざまな手法によって検証し、経済行動に関するさまざまな新しい理論を提唱してきた。本講義では、特に実験やアンケート調査で利他行動や返報行動などが観察されることと、それらを社会的選好、社会や集団の規範、価値観や倫理観などの世界観などの理論によって理解できること、また、異なる倫理観によって政策評価を行うと異なる政策が推奨されることを中心に考察する。

<到達目標/Goals,Aims>

行動経済学の理論と実証の基礎を理解し、これらをどのように現実の経済行動や経済現象を理解することに応用できるかを理解することを目標とする。特に主要な理解の目標は、(1) 社会的選好の理論により、どのような経済行動を説明できるか、(2) 社会や集団の規範の理論によって、どのような経済行動を説明できるか、(3) 文化とその背後にある世界観がどのような経済行

動と減少を説明できるか、(4) 規範行動経済学の理論により、どのように政策などを評価できるか、(5) アンケートや実験がどのように行動経済学の実証研究のために用いられているか、である。

<担当者からのメッセージ/Message>

予算制約かの効用最大化などのミクロ経済学の基礎および最小二乗法などの統計学の基礎をすでに学んだ学生を対象とする。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10 名

27

30413020-000 **特講Ⅰ（行動経済学と共同体メカニズムⅠ）** 講義 今出川 春 火・2 日本語

経済学研究科 理論経済学専攻 大垣 昌夫

<概要/Course Content Summary>

危機の時代における経済システムにおいて、共同体メカニズムの活用が喫緊の課題となる。共同体メカニズムとは、少なくとも1人が自発的な協力を提案して拒否されないメカニズムであり、市場メカニズムと権力メカニズム（例えば警察や裁判制度等の権力を基礎に税金の支払い等を強制することができるメカニズム）を補完する。例えば日本を初め多くの国々で少子高齢化が進んでおり、認知能力の高齢化による低下で独力では市場メカニズムを活用できない高齢者の人口の割合が大きくなる。しかし少子高齢化のために政府財政危機が生じるために権力メカニズムだけに市場メカニズムの補完を頼ることができず、共同体メカニズムを活用していく必要が大きくなっていく。本講義は、行動経済学の日本語と英語の文献からの知見を履修生が発表し、共同体メカニズム研究を理解し、今後のさまざまな社会的課題に応用していくための議論を行っていくことを中心とする。

<到達目標/Goals,Aims>

共同体メカニズムに関する行動経済学の理論と実証の基礎を理解し、これらをどのように応用して危機の時代のさまざまな課題に対処していけるかを理解することを目標とする。

<担当者からのメッセージ/Message>

予算制約かの効用最大化などのミクロ経済学の基礎および最小二乗法などの統計学の基礎をすでに学んだ学生を対象とする。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5 名

28

30403105-000 **経済学史** 講義 今出川 春 木・3 日本語

経済学研究科 理論経済学専攻 西岡 幹雄

<概要/Course Content Summary>

社会において、もっとも身近で基本的な経済が理解しにくいのは、その根底にある考え方や背景がどのような経緯を経て、今日、形成され発展してきたのかをたどらないままに対処するからです。社会にとって、土台となる経済の発展、その背後にある考え方や経済学の形成を研究します。とくに経済社会のリスクをいかに克服してきたかに着目しながら、これを支える内部事情と外部環境、そしてその背景を考えるうえで、どのような視点が重要なのかも取り上げていきます。

<到達目標/Goals,Aims>

積極的にかかわる姿勢を求めます。経済社会現象に必然的なリスクを回避して、いかに成長と信頼を確保するかを自らに取り込んでおくことは、その後、研究の道に進んでも、あるいは高度な専門職に就いても、必須の知的武装となります。経済学の形成と展開を考えることは、AI に負けない将来のための武器です。経済学史では、そうした側面にも注意を払い、多様で統一感のある自分が組み立てることをめざします。

<担当者からのメッセージ/Message>

経済社会というあり方について多角的にアプローチし、人間社会・文化・歴史の共通の本質と現れ方に関心を寄せる学生の皆さんとともに組み立てたい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5 名

29

30414008-000 **経済思想史** 講義 今出川 秋 金・2 30%英語

経済学研究科 理論経済学専攻 西岡 幹雄

<概要/Course Content Summary>

社会において、もっとも身近で基本的な経済が理解しにくいのは、その根底にある考え方や背景がどのような経緯を経て、今日、形成され発展してきたのかをたどらないままに対処するからです。社会にとって、土台となる経済の発展、その背後にある経済思想を研究します。経済の形成と展開は、直面するリスクを克服して、政治・経済・社会を安定的に発展させるための歩みでした。たしかに、その起源は欧米、とりわけいち早く産業革命を成し遂げた英国・西ヨーロッパにあります。しかしながら、経済の形成と展開を考えるフレームワークは、なにも欧米的枠組みに限定できません。とくに日本発の自己認知と合理性から裏づけられた、多様な産業と企業の活動、知識と付加価値を生み出すための工夫と思想は、内外のマクロ的激動を考えていくうえで、きわめて重要です。ここでは、<太>英国・西ヨーロッパの枠組みの中で誕生した経済思想と、それに影響されながらも、日本の革新と伝統の中で生まれた「経済」的思考に着目していきます。

<到達目標/Goals,Aims>

積極的にかかわる姿勢を求めます。経済社会現象に必然的なリスクを回避して、いかに成長と信頼を確保するかを自らに取り込んでおくことは、その後、研究の道に進んでも、あるいは高度な専門職に就いても、必須の知的武装となります。日本経済の形成と展開を考えることは、AI に負けない将来のための武器です。経済思想史では、皆さんにとって、現代と世界を生きるうえで、どのようなことがもっとも不可欠なのかを、自分で組み立てることをめざします。

<担当者からのメッセージ/Message>

経済社会というあり方について多角的にアプローチし、人間社会・文化・歴史の共通の本質と現れ方に関心を寄せる学生の皆さんとともに組み立てたい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5 名

3030403103-000 **基礎計量経済学** 講義 今出川 春 火・3 30%英語経済学研究科 理論経済学専攻 **八木 匡****<概要/Course Content Summary >**

本講義では、統計分析、計量経済学的手法を用いて、質的データおよび量的データの分析方法を学んでいく。そのため、統計学および計量経済学に関する理論的な学習を行い、データを用いながらどのように統計学および計量経済学が実証分析で活用されているかを示す。本講義は、経済学研究科 PSE(Professional Study in English)の科目となっております。講義の中での英語使用は、受講者構成を見て判断しますが、全体に3割を英語で行うことを予定しております。

<到達目標/Goals,Aims>

統計学の基本的考え方が理解でき、推定・検定の理論と手法を経済分析の中で活用できるようにする。計量経済学の基本的分析法である最小二乗推定に関する理解を正確に持ち、具体的にどのような計量経済学的分析、数量分析が可能であることを理解し、自分の研究テーマの中で、実際に数量分析を適用できる能力を養成する。

<担当者からのメッセージ/Message>

統計学の基礎知識を持っていると理解は早いです。講義は基礎から行います。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

3130423006-000 **格差社会論** 講義 今出川 秋 金・3 日本語経済学研究科 応用経済学専攻 **八木 匡****<概要/Course Content Summary >**

格差および所得分配の問題は、労働意欲、国民の間の競争意識などと強い関係を持ち、経済の成長と社会の安定に多大な影響を与えてきた。本講義では、静学的所得分配状態の評価方法から出発し、動学的所得分配論と所得分配と経済成長との関係についてこれまでの研究をサーベイすることを目的とする。これまで格差および所得分配の問題は、1)ある一時点での分配の不平等度を測り、分配状態を評価する、2)分配の不平等度の時間変化を測定し、異時点間および世代間での不平等度の伝播を明らかにする、3)所得再分配政策の分析と評価、4)分配状態に強い影響を与える公共政策の分析と評価、といった点から考察されてきた。本講義では、1)のような、ある一時点での所得分配状態を分析することを「静学的分析」、2)の異時点間での不平等度の伝播に焦点を置く分析を「動学的分析」と呼び、所得分配状態の評価の方法を再検討していく。3)および4)の問題は、静学的分析と動学分析の2つの視点によって考察される。特に、動学的視点に立った所得再分配政策の分析はこれまであまり行われておらず、本講義ではこの点に大きな比重を置きながら議論を進めていく。また、所得分配と幸福感との関係进行分析し、格差社会のもつ問題点を明確にすると共に、所得分配と経済成長との関係进行分析することにより、格差社会と効率性との関連についても分析していくことにする。

<到達目標/Goals,Aims>

格差の測定手法についての理解を行い、静学的分析と動学的分析の基礎を学び、格差社会を理論的および実証的に研究する能力を形成する。

<担当者からのメッセージ/Message>

特に基礎知識は不要です。日本における経済格差が生まれるメカニズムを学びます。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

3230403110-000 **文化経済学** 講義 今出川 春 水・3 日本語経済学研究科 応用経済学専攻 **河島 伸子****<概要/Course Content Summary >**

「文化」は、経済とは相容れないもの、と考えられがちである。しかし、歴史的に見ても、文化は常に経済的なパトロンを必要としてきた。近年では、文化の経済活動に対する貢献への関心も高まる、など、文化と経済との関係には多様な側面が見られる。本講義においては、芸術文化や文化遺産、音楽・映像・ゲームなどのクリエイティブ産業が、どのような生産・流通・消費の仕組みを持つのか、そこにおける政策課題は何かを探っていく。文化経済学の理論以外に、社会学や政策科学も利用していきたい。初回に、どのような進め方をするかを相談の上、決定していく。学期の終わりの回では、各学生が興味を持つクリエイティブ産業のテーマにつき、調査した結果を発表してもらい、議論をする。

<到達目標/Goals,Aims>

学生は、文化経済、文化政策、コンテンツ産業マネジメントの分野における重要な論点について、基本的な理解を深め、分析能力を身につけることができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

文化のマネジメント、観光、文化外交などに関心がある方も歓迎です。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名

3331800139-000 **グローバル化と格差問題** 講義 今出川 秋 木・5 日本語グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ 専攻 **菊池 恵介****<概要/Course Content Summary >**

近年アメリカやヨーロッパでは、トランプ大統領の誕生、イギリスのEU離脱、フランスの国民戦線(FN)やドイツのための選択肢(AFD)などの排外主義政党の躍進など、既成政治のドミノ倒しともいえる混乱が続いている。このような現象が、世界的に拡大している背景には何があるのか。この授業では、まず福祉国家の形成史を振り返った上で、世界経済のグローバル化に伴う階層格差の拡大、投機マネーによるバブル経済の頻発、リーマン・ショック後の緊縮政策の影響など、近年の世界的なポピュリズム台頭の背景を探る。

<到達目標/Goals,Aims>

階層格差の拡大とバブル経済の仕組みが説明できる。

<担当者からのメッセージ/Message>

グローバル化に伴う階層格差の拡大や金融危機などに関心がある院生。とくに基礎知識は問いません。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

34

30403112-000 社会政策 講義 今出川 春 金・2 30%英語

経済学研究科 理論経済学専攻 山森 亮

<概要/Course Content Summary>

この授業の目的は、(1) 社会政策・福祉国家（とその研究の）現状と課題について、大まかな見取り図を得るとともに、(2) 社会政策研究にかかわる重要な論点（価値中立性の問題、未だ存在していない制度構想をどのように扱うか、経済学研究科で社会政策を学ぶことの意義と困難など）について議論すること、(3) PSE 科目の一環として開講されることに鑑み、英語で社会政策について論じることができるようになること、の三つである。この三つを同時に行うために、社会政策の鍵概念でありながら、経済学においてほとんど理論的に取り上げられることのなかった「必要」概念について論じた、フェミニスト経済学に関する英語文献をおもにテキストとして使用する。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が、自らの価値前提を意識することを通じて、異なる価値前提に基づく研究への接し方を学び、先行研究を消化しながら自ら問題設定をして研究を進められるようになること。学生が、自らの問題意識に基づいて、英語で書かれた学術論文を読み込めるようになること。

<担当者からのメッセージ/Message>

英語の学術論文・モノグラフを読むことができ、日本語ないし英語で議論する能力があれば、特別な経済学の知識は必要ない。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

35

30562171-000 国際金融論 講義 今出川 秋 水・3 日本語

商学研究科 商学専攻 服部 茂幸

<概要/Course Content Summary>

現代はグローバル金融資本主義の時代でもある。2008年のアメリカ発のサブプライム危機が世界同時不況を引き起こしたことはみなさんも知っているであろう。本講義では日本、アメリカ、ユーロ圏など世界各国の経済問題を国際金融の視点から論じる。本講義は現状の説明が主であるが、説明を理解するためには最低限の理論的素養が必要とされる。

<到達目標/Goals,Aims>

各国の経済の問題、特に国際金融に関する問題を経済学の理論によって理解できるようになる。国際経済学の理論を用いて、国際金融と経済のデータを分析することができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

アメリカのトランプ大統領の登場、日中貿易戦争、イギリスのEU離脱、日本のアベノミクスと異次元緩和など、今、世界経済は大きく動いています。こうした世界の情勢を知ることが、経済学は国際金融を専門とするひとだけでなく、広く社会科学を学ぶ上で重要な意味があると考えています。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5~10名程度

36

30770209-000 資本市場研究 講義 今出川 春 月・6 日本語

総合政策科学研究科 総合政策科学専攻 足立 光生

<概要/Course Content Summary>

本講義では株式市場、債券市場、あるいはデリバティブ市場について体系的な学習を行いながら、資本市場政策に関する様々なケースを考察する。またベンチャー企業に対する視野を持ち、今後のベンチャー支援政策についても考察を深める。

<到達目標/Goals,Aims>

- ・修士論文を作成するために必要な金融市場、資本市場に関する基礎知識を身につける。
- ・資本市場における政策、ベンチャー支援政策に関して各自の見解を持つ。

<担当者からのメッセージ/Message>

資本市場について深く学んでみたい方の受講を歓迎します。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

37

30780230-000 金融経済教育 講義 今出川 秋 月・6 日本語

総合政策科学研究科 総合政策科学専攻 足立 光生

<概要/Course Content Summary>

持続可能な社会の実現に向けて、国民ひとりひとりが的確な金融リテラシーを持つことが期待されている。たとえば国民の資産形成に関しては、これまでも「貯蓄から投資へ」を合言葉に金融経済教育の充実が図られてきた。ただし、金融経済教育がわれわれの社会のなかで真に結実したとはいえない。むしろ、高度に複雑化した金融商品取引や新しいテクノロジーに裏打ちされる暗号資産取引等の登場によって大きな混乱が生じているといえよう。本講義ではこのような現状をふまえて、今後の金融経済教育のあり方について考察を行っていく。

<到達目標/Goals,Aims>

- ・金融経済教育のあるべき姿について、受講生各自がイメージを持つ。
- ・現代の金融商品を解説するための基礎力を、受講生各自が身につける。

<担当者からのメッセージ/Message>

「これからの世代にどのような金融経済教育を施したらよいか」について関心を持つ方の受講を歓迎します。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

38

30414002-000 アジア経済史 講義 今出川 春 金・3 日本語

経済学研究科 理論経済学専攻 横井 和彦

<概要/Course Content Summary >

1978 年末の「改革・開放」以来、中国は「社会主義市場経済」という独特のシステムの下で著しい経済成長を遂げてきている。それは、「社会主義」と「市場経済」という一見水と油の関係に見える 2 つの制度の「混合」の下で動いてきているものだけに、政治経済の現局面を正確に理解しようとする場合、そこで必要とされる学問的営為は決して単純なものではないし、平易なものでもない。本講義ではこうした水面下での膨大な「作業」を学び取ることを目的とする。

<到達目標/Goals,Aims>

現代中国経済史をテーマとする研究論文を作成するプロセス（歴史的分析の方法、研究状況の把握、研究課題の絞り込み、資料の収集・分析など）を身に付け、修士論文を書くことができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

中国社会・経済を対象に人文・社会科学的手法による研究を進めたい学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5 名

39

30770211-000 起業論 講義 今出川 秋 水・6 日本語

総合政策科学研究科 総合政策科学専攻 足立 光生

<概要/Course Content Summary >

現代社会において「起業」は欠かすことのできない重要な要素である。また、スタートアップ企業の設計について考えていくことは、現代ビジネスの本質を理解することにも通じる。そこで本講義では「起業を模擬する」という視点から、スタートアップ企業を主観的にとらえることで現代ビジネスの深層に迫っていく。また、スタートアップ企業の成長性について考える場合、投資を行おうとする「投資家」の判断基準や行動様式を意識することも重要であり、株式市場についても理解を深める。さらに、本講義では現代ビジネスを支えている様々な技術にも触れ、起業との関わりについても考えていく。

<到達目標/Goals,Aims>

- ・起業について、受講生各自が十分な理解を持つ。
- ・現代社会における企業を理解するための基礎力を、受講生各自が身につける。

<担当者からのメッセージ/Message>

「起業」を通じて現代社会の理解を深めたい方の受講を歓迎します。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

40

30920011-000 社会関係論 対面授業 今出川 秋 金・4 日本語

社会学研究科 メディア学専攻 佐伯 順子

<概要/Course Content Summary >

社会関係を考察するには、学際的、国際的な視点が必要である。授業においては、2024 年度の大学院科目においても、メディア学以外の専攻の大学院生の方の問題関心、知見と、メディア学の大学院生の知見を融合することで、有意義な学際的学びを実現することができたため、2025 年度科目においても、他専攻所属大学院生の方の受講を歓迎し、大学院生どうしの異なる専門分野の相互交流を深め、専門研究にいかしてほしい。

<到達目標/Goals,Aims>

メディア学の知見と他専攻の知見を融合し、学際的、国際的な視点から研究する能力が身につく。大学院にふさわしいレベルでの研究発表、学術的討論の能力が身につく。

<担当者からのメッセージ/Message>

なるべく幅広い議論をしたいため、年次、基礎知識に関する条件は設けない。ただし、発表と議論中心の授業になるため、主体的に授業に参加することを期待する。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

41

30920015-000 現代社会論 対面授業 今出川 春 金・4 日本語

社会学研究科 メディア学専攻 佐伯 順子

<概要/Course Content Summary >

現代社会におけるメディアの役割、表象と社会との相互関係を、新聞、雑誌記事、映像、ネット上の情報を含めての総合的分析を通して考える。言語情報、映像表象を、社会的データとてらしあわせて考察し、社会史、文化史的な観点からのメディア表象研究を演習形式も含めて身につける。あわせて、関連する学術雑誌の論文を読み、方法論、テーマ設定等も含め、受講生の研究が進展するように指導する。大学院授業であるので、受講生の発表を中心に運営する。

<到達目標/Goals,Aims>

- ・新聞、雑誌記事、映像情報、ネット上の情報を、大学院レベルで調査し、分析する力を身につけ、現代社会との関連を考察することができるようになる。
- ・理論的な学術論文を正確に読解する能力を身につけ、先行研究精査を踏まえての論文執筆ができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

なるべく幅広い議論をしたいため、年次、基礎知識に関する条件は設けない。ただし、発表と議論中心の授業になるため、主体的に授業に参加することを期待する。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

30920025-000 **メディア認知論** 対面授業 今出川 春 月・4 日本語

社会学研究科 メディア学専攻 池田 謙一

<概要/Course Content Summary >

メディア研究の中でも、メディアと人間の心理・行動、またその情報環境的な制約に関する実証的な研究領域（メディア効果論、情報行動論等）の文献を概説・講読・議論し、この分野における発展的な理解を得ることを目標とする。

検討対象となる文献は参加者全員が読んでくれることが基本である。毎回、文献のレジュメを作成する一方で、授業前に予め担当教員にコメントを送る。授業の場では、教員と参加者がインタラクティブに議論に参加し、検討対象の文献に対して理解を深める。

春学期のメディア認知論では、近年のメディア研究の心理学的側面に関わる最新の書籍・論文を取り上げ、これを詳細に検討する。英語文献と日本語文献とともに検討する。

<到達目標/Goals,Aims>

メディア認知論の関心の立て方、焦点の絞り方、分析の方法論を理解し、それを読み解くことを専門的に学習する。

<担当者からのメッセージ/Message>

毎回授業に出席するだけでなく、学習文献を読みこなし、事前にコメントを送り、自分が紹介担当の時はレジュメを作成し予め全員に送付すること。授業では積極的に議論に参加することで、教員が解説や討論を主導する。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

30920026-000 **社会ネットワーク論** 対面授業 今出川 秋 月・4 日本語

社会学研究科 メディア学専攻 池田 謙一

<概要/Course Content Summary >

メディア研究の中でも、メディアの利用者に焦点を置いた、メディアと人間の心理・行動、その情報環境論的制約に関する実証的な研究領域（メディア効果論、情報行動論等）の文献を概説・講読・議論し、この分野における発展的な理解を得ることを目標とする。

検討対象となる文献は参加者全員が読んでくれることが基本である。毎回、文献のレジュメを作成する一方で、授業前に予め担当教員にコメントを送る。授業の場では、教員と参加者がインタラクティブに議論に参加し、検討対象の文献に対して理解を深める。

秋学期の社会ネットワーク論研究では、近年のインターネット研究の代表的な書籍と論文を取り上げ、これを詳細に検討する。あらかじめ、候補となる書籍を挙げておく。また読破する論文については英文・日本語の書籍や専門誌の最近の優れた論文とする。本数が多いが、講義の中で受講生と相談の上、決定する。

<到達目標/Goals,Aims>

メディア論の関心の立て方、焦点の絞り方、分析の方法論を理解し、それを読み解くことを専門的に学習する。

<担当者からのメッセージ/Message>

毎回授業に出席するだけでなく、学習文献を読みこなし、事前にコメントを送り、自分が紹介担当の時はレジュメを作成し予め全員に送付すること。授業では積極的に議論に参加することで、教員が解説や討論を主導する。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

30770090-000 **雇用政策論研究** 講義 今出川 春 土・5 日本語

総合政策科学研究科 総合政策学専攻 川口 章

<概要/Course Content Summary >

日本および主要国における雇用の現状と雇用政策について議論します。授業は毎回1つのテーマを決めて、それに関連する論文を1つ取り上げます。2回目以降の授業では、受講生は、事前に論文を読み、その論文についてA4用紙1枚に、要約と論文に対する自分の意見を書いたレポートをWordで入力し、授業の前日までにメールで川口に提出してください。要約と意見の分量は半ページを目安とします。論文の中には回帰分析を使ったものがあります。論文を読むうえで必要な回帰分析の知識については、授業の中で教えます。

DO Weekの授業で扱う論文は、下記テキストコメントに示しています。テキストは、インターネットを利用し「日本労働研究雑誌」で検索すれば見つかります。2回目以降の授業で扱う論文リストについては、最初の授業およびe-classで指示します。

<到達目標/Goals,Aims>

日本が直面している雇用問題について現状を知ることができる。

回帰分析を使った学術的論文が読めるようになる。

日本の雇用制度の長所と短所について海外と比較できるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

異なる学問分野からのアプローチとディスカッションにより、多角的な視点より雇用政策を議論したい学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名

30830007-000 **計量社会学特論Ⅰ** 講義 京田辺 春 火・1 日本語

文化情報学研究科 文化情報学専攻 鄭 躍軍

<概要/Course Content Summary >

「社会の現状を見る」こと、「社会問題の存在を解明する」こと、さらに「社会の仕組みを構想する」ことにとって、数理的・統計学的理論及び具体的な計測・分析方法が必要である。本授業では、人間の意識や行動の測定・分析の基礎的数理を学ぶと同時に、社会科学研究に必要な「関連」「因果」「予測」「分類」「発見」などのデータ分析方法を習得する。なお、社会現象を扱うための計量社会科学的なアプローチを研究に取り入れようとする院生を対象とする。

<到達目標/Goals,Aims>

計量社会科学の基本理論と方法を理解し、社会現象の測定方法及び分析方法を理解することができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

本講義は、諸々の社会現象の背後に潜む人間行動の真実や法則を計量的に理解するための必要最低限の統計科学・数理学の理論と方法についての講義です。計量社会科学方法の特徴や不確実性を伴う人間行動の測定・分析の基礎理論を学ぶことで、増えつつある計量方法を用いた社会科学研究成果の読解、自らの研究の方法論的開拓などに役に立ちます。本講義では、社会科学系の基礎数学と統計学の基本知識を前提とします。受講者の基礎知識によって、講義形態やテキストを変更することがあります。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 3名程度

46

31830212-000 レイシズム研究 講義 今出川 秋 水・5 日本語
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ 専攻 菊池 恵介

<概要/Course Content Summary >

第二次大戦後、ナチス・ドイツによるホロコーストの衝撃を経て、「人種」の優劣を語ることはタブーとみなされるようになった。だが、ヒトラーの『わが闘争』などに記された人種理論は、彼自身が発明したものではなかった。それは南北アメリカ大陸やアフリカなどを征服していく過程で、西洋の名だたる科学者たちによって創り出されたものであり、その影響は現代にも及び続けている。この授業では、どのようにして「人種」の概念が歴史的に形成されてきたのかを振り返った上で、「人種の優劣」よりも「文化的差異」などを強調するようになった現代の人種主義の新たな展開を探る。

<到達目標/Goals,Aims>

1) 西洋近代社会が、「アメリカ独立宣言」や「フランス人権宣言」などで、すべての人間の平等を唱える一方、「人種の優劣」を説く理論を必要とした理由が説明できるようになる。2) 現代社会において、住宅・教育・雇用などの面で、どのように差別が再生産されているかを説明できるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

人種主義の歴史や現代の移民排斥などの問題に関心がある院生。とくに基礎知識は問いません。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

47

31702566-000 実験社会心理学特論 講義 京田辺 秋 火・1 日本語
心理学研究科 心理学専攻 及川 昌典

<概要/Course Content Summary >

人間の認知、感情、行動の背後には意識の働きがある。かつては誰もがそう信じていた。このような伝統的な人間観とはうらはらに、わたしたちが日常的に下す決定の多くは、実は意識的な熟慮を伴わずになかば自動的に行なわれていることが、近年の社会心理学研究では明らかにされてきている。本講義では、意識と無意識という視点から、社会行動の仕組みを解き明かし、私たちの判断、行動、そして人間関係をよりよく先導するための道筋について考える。

<到達目標/Goals,Aims>

先端的な心理学の知識、理論、考え方を習得するとともに、その視点を日常の問題に応用できるようになることを目指す。

<担当者からのメッセージ/Message>

実証的な社会心理学の研究結果ならびに研究法について学びたい学生。ただし、心理学に関する講義、心理学研究法に関する講義、心理学統計法に関する講義を受講したことのある学生。英語の専門書や雑誌論文を読みます。パワーポイント資料を作り、発表することが求められます。

※心理学研究科の受講生がいない場合は休講とする場合があります。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名

48

31702572-000 学校心理学特論 講義 京田辺 春 月・2 日本語
心理学研究科 心理学専攻 神山 貴弥

<概要/Course Content Summary >

本授業では、学校心理学を構成する基本的な領域の中から「適応」、特に社会的な適応の問題を取り上げる。学校適応に関わる基本的なモデルや規定因についての理解を深めた上で、これらに関わる国内外の文献を講読し最新の研究動向を探る。また、これらの研究動向を踏まえた上で、児童・生徒の学校適応を促進する実践的方策について議論を行う。

<到達目標/Goals,Aims>

学校心理学における「適応」に関する基本的な考え方を理解し、児童・生徒の社会的な適応・不適応に関する問題についての実践的方策を、最新の研究動向に基づいて考えることができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

学校適応の問題に関心を持ち、教育心理学に関する基本的な知識を有する学生。英語の論文やハンドブック等も講読する。

※心理学研究科の受講生がいない場合は休講とする場合があります。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 3名

49

31702567-000 学習心理学特論 講義 京田辺 春 月・4 日本語
心理学研究科 心理学専攻 青山 謙二郎

<概要/Course Content Summary >

動物を用いた行動実験を中心に、行動の変容に関するメカニズムに関する理論および方法論について解説する。トピックとしては食行動や衝動性に関する文献の他に、受講生の希望に合わせて取り上げる。学習は、学校における生徒や教師の行動、家庭における親子の行動をはじめ、人間が行うあらゆる行動の基礎となるメカニズムであるため、その原理の理解は心理学の様々な分野を学ぶ上で重要である。本年度は、Bouton (2016)の Learning and Behavior の輪読を中心に進める予定であるが、受講者の研究課題に応じて柔軟に科目を運営する。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が、学習に関する研究を理解し、研究計画を立案できる能力を身につける。

<担当者からのメッセージ/Message>

学習（特に条件づけ）の行動的研究について学ぶことを欲する学生。学部レベルの学習心理学に関する知識を身につけていることが望ましい。

※心理学研究科の受講生がない場合は休講とする場合があります。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 3名

50

30960217-000 比較教育文化論特講Ⅰ 対面授業 今出川 春 火・4 日本語

社会学研究科 教育文化学専攻 山田 礼子

<概要/Course Content Summary >

－OECD諸国における高等教育と社会－

高等教育の現状はその国独自の社会の制度、政策、文化、価値観との関連性が高い。

本科目では、高等教育と社会との関連性について、近年のOECD諸国における高等教育政策の共通点をベースに批判的に検討し、現在進展している大学改革についても考察する。

日本と米国を中心に邦文の解説を中心に、各回担当者による発表と内容についての論点整理と議論をベースに進める。

<到達目標/Goals,Aims>

①多文化共生社会における教育文化による人間形成について、客観性と独創性のある研究に必要な諸理論と学際的方法に基づいて体系的な論文執筆ができる。

②多文化共生社会における教育文化による人間形成について、諸理論と学際的方法に基づいて問題発見、分析、解決ができ、これを公表することができる。

③多文化共生社会における教育文化による人間形成について、学際的な視野を持って主体的に活動する高度職業人としての態度を育成できる。という3つのDPのもと、比較研究をベースにした学会発表の準備ができるようになることと、比較研究をベースにした研究の手法を修得することを目指す。

<担当者からのメッセージ/Message>

博士前期段階、あるいは博士後期段階の学生どちらでも受講できる。特に、大学在職の職員にとっては、高等教育政策、高等教育の比較、現在の動向などを学ぶことで、日本の高等教育の相対比較あるいは今後取り組むべき大学改革を理論的・実践的に把握することができる。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

51

30960218-000 比較教育文化論特講Ⅱ 対面授業 今出川 秋 火・4 日本語

社会学研究科 教育文化学専攻 山田 礼子

<概要/Course Content Summary >

－学生教育評価の国際比較－

高等教育の現状はその国独自の社会の制度、政策、文化、価値観との関連性が高い。

近年STEM高等教育重視政策が世界で進行するなかで、STEM人材と人文・社会系人材と大学教育について学ぶ。

英文論文の解説を中心に、各回担当者による発表と内容についての論点整理と議論をベースに進める。

<到達目標/Goals,Aims>

①多文化共生社会における教育文化による人間形成について、客観性と独創性のある研究に必要な諸理論と学際的方法に基づいて体系的な論文執筆ができる。

②多文化共生社会における教育文化による人間形成について、諸理論と学際的方法に基づいて問題発見、分析、解決ができ、これを公表することができる。

③多文化共生社会における教育文化による人間形成について、学際的な視野を持って主体的に活動する高度職業人としての態度を育成できる。という3つのDPのもと、文献の解説を通じて論点整理とプレゼンテーションができるようになること、世界の高等教育政策の動向の理解を通じて、日本の高等教育政策を相対的に見ることができるようになること、STEM人材と人文・社会系人材とグローバル・コンピテンスの関係を相対的に見ることができるようになることを目指す。

<担当者からのメッセージ/Message>

上記とほぼ同じであるが、特に学習成果の測定に関する理論や諸外国での実践例について学ぶことにより、それを実践・応用することにつながる。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

52

30770055-000 消費者政策研究 講義 今出川 春 集中 日本語

総合政策科学研究科 総合政策学専攻 武蔵 勝宏

<概要/Course Content Summary >

現代社会で生活する消費者は、商品・サービスを購入・利用する消費生活において、多くのトラブルや被害に直面する。消費者がこうした被害に遭わずに安心・安全な消費生活を送れるようにするために消費者政策が実施されている。また、近年の消費者政策では、倫理的消費とそれを担う消費者市民社会の形成が重要な理念となっている。本講義では、これまでの消費者政策の理念、法制、行政実施体制等を学ぶとともに、消費者政策の今日的課題と対応の方向を考察する。受講生には、指定された文献についての報告のみならず、各国の消費者政策についての主体的な調査分析とその報告を分担して担当してもらう。

<到達目標/Goals,Aims>

複雑化、多様化した消費者政策を推進するための知識、態度、技能を習得し、消費者政策の分野での専門人材としての素養を身につける。

<担当者からのメッセージ/Message>

消費者問題を政策面から分析、理解し、消費者被害の予防や、裁判やADRによる被害者救済について学ぶことができます。消費生活アドバイザーや消費生活相談員の資格取得にも有益です。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

53

31600102-000 専攻共通特殊講義（ナノテクノロジー） 講義 京田辺 春 水・I 日本語

理工学研究科 電気電子工学専攻 大谷 直毅

<概要/Course Content Summary>

「ナノ」とはよく耳にする一般的な言葉となったが、これはナノメートル台の微小な物質の「観察」「作製」「加工」が容易になってきてその物理的な面白さと工業製品への応用が可能となってきたことが原因である。しかしながら、ナノテクノロジーとは複合系の広範囲に亘る学問であるため、最近話題の事例のみを概観するとその定義は曖昧となってしまう。この講義では、ナノテクノロジーに必要な「観察技術」「作製技術」および「加工技術」の基礎を理解し、学生諸氏が実社会においてこれらの技術が必要となったときに応用できるように知識の下地を形成することを目的とする。

<到達目標/Goals,Aims>

ナノテクノロジーの基礎となる、観察技術、作製技術、加工技術を理解し、社会に出てこれらの技術が必要となったときに応用できるように知識の下地を形成すること。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

54

31420035-000 自己組織化の科学特論 講義 京田辺 秋 月・4 日本語

生命医科学研究科 医工学・医情報学専攻 医工学コース 剣持 貴弘

<概要/Course Content Summary>

生命体は、自らの体を自律的に形成し、生命活動を維持している。一方、熱力学第二法則によると、秩序あるものは時間と共に、無秩序な状態に移行していく（エントロピー増大の法則）。生物の自己組織化の謎を解くカギは、生物が非平衡開放条件を活用していることにある。本講義では、簡単な微分方程式など、数理科学的方法論を活用して、生物の自己組織化の基本に迫ることを目標としている。生物の自律的な情報処理のメカニズムが、現存するコンピュータの原理とは全くことになっていることなども、取り上げて議論する予定である。

<到達目標/Goals,Aims>

時間発展を記述するような数理科学的手法（大学の1, 2年生レベルの数学）を活用して、自己組織化や情報処理の問題を定量的に扱えるようにすることを目標としたい。あわせて、身近な現象の中に、疑問を見出し、それを自らの力で解いていくといった方法論を身に付けていきたい。

<担当者からのメッセージ/Message>

生命体は、自らの体を自律的に形成し、生命活動を維持している。一方、熱力学第二法則によると、秩序あるものは時間と共に、無秩序な状態に移行していく（エントロピー増大の法則）。生物の自己組織化の謎を解くカギは、生物が非平衡開放条件を活用していることにある。本講義では、簡単な微分方程式など、数理科学的方法論を活用して、生物の自己組織化の基本に迫りたい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 30名程度

55

31511039-000 環境生理学特講 講義 京田辺 春 集中 日本語

スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 福岡 義之

<概要/Course Content Summary>

ヒトは進化の過程で、自然環境への合理的な環境適応能を獲得した。この適応能は、個体発生から死に至るまで時間軸で変化し、生活環境によって修飾される。とくに、近年科学技術の急速な発達とアメニティ（快適環境）の追求に伴い生活環境が大きく変化し、現在および将来においてヒトの生物学的な適応能が減弱し、その老化過程も早期に出現することが懸念されている。このような懸念を打破し、ヒトとして様々な外的環境（低圧・高圧・高温・低温・重力など）や内的環境（老化・栄養・日内）に応じた適切な環境適応能を保持するためには、本来ヒトが獲得した合理的な環境適応能の生理学的機序、およびその時間軸的变化（老化過程）を解明する必要がある。本講義では、興味あるテーマについて実践的な研究推進の方向性と工業デザインについて学習する。

<到達目標/Goals,Aims>

ヒトの人類学的背景と進化の過程で獲得した環境適応の生理人類学的メカニズムを理解することによって、ヒトの人体設計を考慮したアメニティのための工業デザイン設計（居住環境、衣服、福祉用具、照明、生活用品）の能力を獲得できる。

<担当者からのメッセージ/Message>

受講生は生理学、生物学、フーリエ解析などの基礎知識を有し、将来工業デザイナーを希望することが望ましい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名

56

31410124-000 有機合成特論 講義 京田辺 秋 月・2 日本語

生命医科学研究科 医工学・医情報学専攻 医情報学コース 太田 哲男

<概要/Course Content Summary>

有機化合物は世の中で広く用いられている。その入手法は日々進化しており、いわゆる有機化学で学習する方法論から進化した触媒反応が広く利用されている。本講義は、現在の先端的合成反応を系統的に学習する科目であり、ノーベル化学賞関連の内容も複数登場する。これらを通じて、化学の世界の一つの最先端分野を概観できる。

<到達目標/Goals,Aims>

グリーンケミストリー、サステナブルケミストリーなどの環境に配慮した合成手法の一つとして大きな位置を占める有機金属をキーワードとした工業的有機物質の合成に関する基礎知識が身に付く。

<担当者からのメッセージ/Message>

有機化学の知識があることが好ましい。しかしながら、適当な知識がない場合でも、就職で化学メーカーに進む場合など、参考になるとと思われる。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

57

31420013-000 **応用化学特論** 講義 京田辺 秋 水・1 日本語
生命医科学研究科 医工学・医情報学専攻 医情報学コース 大江 洋平

<概要/Course Content Summary>

医薬品をはじめとする生理活性物質は複雑な構造をしているものが多い。そのような複雑な分子を構築するためには、精密有機合成反応と合成経路の設計を習得する必要がある。本講義では、そのような精密有機合成反応の詳細と合成経路の設計法について学び、それらが実際の多段階合成においてどのように活かされているかを学ぶ。

<到達目標/Goals,Aims>

(1) 人名反応を習得する。(2) 反応の選択性の理解する。(3) 逆合成解析の理解する。(4) 全合成反応の中での(1)～(3)の重要性を理解する。(5) (1)～(4)を通し、目的分子を構築する道筋を自身の力で見出せるようになること。

<担当者からのメッセージ/Message>

左記「概要」と「身につく能力(到達目標)」を参照。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

58

31433106-000 **バイオテクノロジー特論** 講義 京田辺 春 火・4/火・5 日本語
生命医科学研究科 医生命システム専攻 野口 範子

<概要/Course Content Summary>

疾病診断に必要なマーカーの開発や予防、治療のための医薬品、さらに健康維持や抗老化を実現する機能性食品の開発などが、バイオ関連ベンチャー企業のターゲットになっている。成功のカギは優れた製品にあるとされる。優れた製品開発のために必要とされ、かつ、現在までに利用されているバイオテクノロジーを基礎と応用にわたって学ぶことに加え、バイオベンチャービジネスの実際、バイオベンチャー企業への投資の実態についても知る。

<到達目標/Goals,Aims>

学外からの講師も多く、バイオテクノロジーに関する基礎知識、社会における現状などの広い情報をえることができ、学生個人の専門領域との関連と相違を考える機会となり、キャリアパスへつなぐことができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

左記「概要」と「身につく能力(到達目標)」を参照。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 30名

59

31630026-000 **熱流体工学特論** 講義 京田辺 秋 金・1 日本語
理工学研究科 機械工学専攻 稲岡 恭二

<概要/Course Content Summary>

エアコンをはじめとする様々な熱流体機器は、流体力学、熱力学、伝熱工学の基礎原理を利用して動作している。機器に生じる諸問題を解決し、また新たな機器を開発するには、少なくとも基礎知識を使って実現を理解する力が必要になる。本講義では、前半で熱流体移動現象の基礎を改めて整理し、後半で熱流体機器の具体例を参照し概説する。講義は配付プリントを解説する予定であるが、受講生が少ない場合には、基礎事項を受講生自らが原著論文を調査・発表し、歴史背景を含め議論することで深め進める予定である。

<到達目標/Goals,Aims>

熱流体移動現象に関する基礎知識を得て、実際の機器の動作や性能について考え、計算できる。自然現象や身の回りで生じている移動現象について、分析する視点を持つ。

<担当者からのメッセージ/Message>

熱移動について学びたい学生。ただし、流れに関する講義、熱に関する講義、一般的な力学に関する講義を受講したことのある学生。微積分(偏微分方程式を含む)など、数学的表現を理解できる学生。英語の原著論文(英文教科書、雑誌論文)を読みます。場合によっては、パワーポイント資料を作り、発表します。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

60

52101021-000 **神経科学入門** 講義 京田辺 秋 月・2 日本語
脳科学研究科 発達加齢脳専攻 高森 茂雄, 坂場 武史, 高橋 晋, 松井 鉄平

<概要/Course Content Summary>

脳科学の基礎的事項について、分子・細胞レベルとシステム・行動レベルとの双方の視点から学ぶ。神経細胞とシナプスにおける情報伝達のメカニズムや、感覚、記憶、情報処理、高次機能の神経回路メカニズム等について学習する。

<到達目標/Goals,Aims>

神経科学の基本的事項について、最先端の話題も踏まえながら、分子機構から高次機能まで広範に理解する。

<担当者からのメッセージ/Message>

神経科学全体に興味を持ち分子機構から高次機能まで広範に理解することを希望する学生、および最先端の問題に関する議論に積極的に参加する学生を期待する。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名まで

61

31420008-000 **生物物理学特論** 講義 京田辺 春 月・4 日本語
 生命医科学研究科 医工学・医情報学専攻 医情報学コース 貞包 浩一郎

<概要/Course Content Summary>

物理学はあらゆる自然現象の基本原理を探る学問であり、なかでも生命現象の本質に迫ることは、これまでの歴史では大きな課題であったし、今後もより重要性が増すものと思われる。本講義では、“生命とは何か？”といった疑問を基軸に、生命体の動的現象の本質を探ることを目的としている。特に現代の生命科学で未解明の課題を明確にすることが、この講義の大きな目的。(1) DNA の物理学：ヒトの DNA は一つの細胞に 2m，(2) 時空間構造の自己生成：生命の体つくりの不思議，(3) 自律的情報処理（非同期超並列時間演算）：神経は何をしているのか？，(4) 生体でのエネルギー変換：化学→仕事の直接変換のしくみとは？。

<到達目標/Goals,Aims>

生命現象に関して、現代においても未だに原理的な理解ができていない問題は何であるかを明確にして、今後の学問に課せられた課題を論じることができるようになりたい。問題や課題の発掘、さらにそれを解くための方法論や研究方法を、受講生が身につけることを目指す。

<担当者からのメッセージ/Message>

物理学はあらゆる自然現象の基本原理を探る学問であり、なかでも生命現象の本質に迫ることは、これまでの歴史では大きな課題であったし、今後もより重要性が増すものと思われる。本講義では、“生命とは何か？”といった疑問を基軸に、生命体の動的現象の本質を探ることを目的としている。特に現代の生命科学で未解明の課題を明確にすることが、この講義の大きな目的。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 150 名程度

62

31511007-000 **公衆衛生学特講** 講義 京田辺 秋 水・2 日本語
 スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 柳田 昌彦

<概要/Course Content Summary>

公衆衛生学で取り扱う領域の中から、疫学の方法論、疫学に関わる統計学的手法、公衆衛生活動の現状や課題、疾病や介護の予防とヘルスプロモーション、ヘルスプロモーションを推進するための身体活動・運動などについて、最新の学術論文や統計資料などの科学的データを基に概説し、各テーマの課題と展望について討議する。

<到達目標/Goals,Aims>

①健康の学術的な概念や公衆衛生学の意義について理解できるようになる。②疫学の方法論や疫学に関わる統計学的手法について理解できるようになる。③日本や世界のヘルスプロモーションの現状と課題について理解できるようになる。④ヘルスプロモーションを推進するための身体活動・運動について理解できるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

本講義では、学士課程で習得した教科書的事実を確認するとともに、最新の文献等からの知見を学ぶことによって、公衆衛生学領域における基本的知識や思考能力の高度化を図る。なお、授業はシラバスの講義計画で進める予定であるが、受講者の理解度に応じて変更も有り得るので、あらかじめ了承願いたい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10 名

63

30806605-000 **多変量解析特別演習** 講義 京田辺 春 火・3 日本語
 文化情報学研究科 文化情報学専攻 森本 栄一

<概要/Course Content Summary>

数理統計学および多変量解析の基礎を踏まえ、各種統計解析法を統計モデルとして位置づけ、統計モデルの考え方や各解析法の本質を理解する。基本的な統計解析法として取り上げるのは、重回帰分析、分散分析、ロジスティック回帰、ポアソン回帰、対数線形モデル、生存時間分析などである。これらの解析法の適用のための条件を正確に理解し、目的や状況に応じた適切な統計解析法の適用について学ぶ。

<到達目標/Goals,Aims>

①統計モデルの考え方や各解析法の本質を理解する。
 ②解析目標に合わせて、適切は解析法を選択することができる。
 ③統計ソフトを用いて、統計解析法を用いたデータの解析ができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

なお、本講義は原則対面で実施するが、状況に応じて変更の可能性がある。随時講義中に指示をする。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限しない

64

30840004-000 **多変量解析特論** 講義 京田辺 秋 金・4 日本語
 文化情報学研究科 文化情報学専攻 宿久 洋

<概要/Course Content Summary>

多変量データの解析法について、一般的な手法をいくつか取り上げ、基本的な考え方、目的、適用例について教授する。方法論および理論的性質を中心に取り扱い、実践的な利用については踏み込まない。取り扱う手法は、重回帰分析、主成分分析、判別分析、クラスター分析、多次元尺度構成法などを考えている。時間が許せば、より一般的に一般化線形モデルについても取り上げる。

<到達目標/Goals,Aims>

データ解析についての基本的な考え方を理解し、目的に応じて適用手法を的確に選択できる。各統計手法の利点欠点を理解し、分析結果を正確に評価解釈できる。

<担当者からのメッセージ/Message>

本講義は理系（実験系）の基盤的知識であるデータ解析の方法論についての講義です。基礎理論をきちんと学ぶことで、手法の誤用や解釈の間違いを防ぐことができます。また、他者の研究結果の正確な理解にもつながります。本講義では、大学教養レベルの、線形代数、微積分学、統計学の知識を前提とします。受講者のレベルによって、講義形態、利用教科書を変更することがあります。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

65

30840015-000 経済統計学特論 講義 京田辺 春 インターネット 日本語

文化情報学研究科 文化情報学専攻 原 尚幸

<概要/Course Content Summary >

本講義では、経済データのような調査観察データの分析手法をデータサイエンスの視点から学習する。線形回帰モデルの最小二乗法から出発し、プログラム評価（統計的因果推論）、分位点回帰、セミパラメトリック法、ノンパラメトリック法、制限従属変数法や、部分識別法などの最新の成果まで、理論に加え実データ分析例も交えながら網羅的に学習する。

<到達目標/Goals,Aims>

調査観察データを分析するための、因果推論や標本バイアスなどのリテラシーを理論面から理解するとともに、実際の分析に適用できる能力を身につける。

<担当者からのメッセージ/Message>

調査観察データの統計分析手法は、近年、劇的に進歩を遂げている分野です。データ分析に興味を持ち、かつ好奇心旺盛な学生の受講を期待します。学部レベルの微積分・線形代数（行列演算）・確率統計の知識は前提とします。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

66

30840016-000 ベイズ統計学特論 講義 京田辺 秋 インターネット 日本語

文化情報学研究科 文化情報学専攻 原 尚幸

<概要/Course Content Summary >

本講義では、ベイズ統計学を理論、計算、応用の3つ側面から学習する。理論パートではすべての議論の基礎となる共役事前分布のベイズモデルの推測手法の理論を学習する。計算パートでは、標準的な事後分布からのサンプリング法であるマルコフ連鎖モンテカルロ法の理論・実装法について学習する。応用パートでは、変分ベイズ学習、ノンパラメトリックベイズ法、トピックモデルなどの近年の話題についてのサーベイを行う。

<到達目標/Goals,Aims>

ビッグデータ時代におけるベイズモデルの意味を正しく理解し、実問題に適用できる能力を身につける。

<担当者からのメッセージ/Message>

高次元の複雑な現象に対する柔軟な統計モデルであるベイズモデルは、ビッグデータ時代の今、非常に注目されている統計モデルです。データ分析に興味を持ち、かつ好奇心旺盛な学生の受講を期待します。学部レベルの微積分・線形代数（行列演算）・確率統計の知識は前提とします。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

67

30830009-000 認知システム研究法特論Ⅰ 講義 京田辺 春 火・Ⅰ 日本語

文化情報学研究科 文化情報学専攻 杉尾 武志

<概要/Course Content Summary >

諸々の文化的現象について理解を深めていくためには、文化の担い手である人間について知ることが不可欠である。本授業では、人間をその心のはたらきという観点から実証的に理解していくための方法論を修得することを目標とする。伝統的な文化を受け継いだり、新しい文化を生み出したりといった人間の認知に基づいた知的なふるまいは、システムとしてとらえることができる。こうした認知システムについて、いくつかのトピックをとりあげて最新の研究動向から、どのような方法論が認知科学的な研究において用いられているのかを学ぶ。

<到達目標/Goals,Aims>

本授業の受講によって、心の基本機能について理解を深めることができるようになる。さらに、各トピックについての文献にあたり、整理することを通して認知科学的な研究の枠組みを修得することができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

様々な学問において、既存の手法では解決することが困難な問題が増加しつつあります。そうした中、これまで以上に学際的に研究を進めていくことが必要となっています。学際的な研究領域である認知科学について、その方法論を中心に修得することで、研究を進めていく上での基礎的能力を身につけることができます。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 2~3名程度

68

31433125-000 サイエンスコミュニケーション特論Ⅰ 講義 京田辺 秋 火・4 日本語

生命医科学研究科 医生命システム専攻 元村 有希子

<概要/Course Content Summary >

広い意味でのサイエンスコミュニケーションとは、個々人ひいては社会全体が、サイエンスを活用することで豊かな生活を送るための知恵、関心、意欲、意見、理解、楽しさを身につけ、サイエンスリテラシーを高め合うことに寄与するコミュニケーションである。それはまた、文科と理科の垣根を超えた知の交流でもある。そのためのツールやスキルを学ぶと同時に、さまざまな社会問題についての議論の深め方について試行する。

<到達目標/Goals,Aims>

サイエンスコミュニケーションのマインドとスキルを磨き、異分野融合への意欲を高める。

<担当者からのメッセージ/Message>

学部サイエンスコミュニケーター養成副専攻を履修済みであることが望ましいが、未履修者でも受講可。多様な分野からの受講者を歓迎する。

なお、サイエンスコミュニケーション特論Ⅰ・Ⅱはセットで登録すること。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

69

31433126-000 サイエンスコミュニケーション特論Ⅱ 講義 京田辺 秋 火・5 日本語

生命医科学研究科 医生命システム専攻 元村 有希子

<概要/Course Content Summary>

広い意味でのサイエンスコミュニケーションとは、個々人ひいては社会全体が、サイエンスを活用することで豊かな生活を送るための知恵、関心、意欲、意見、理解、楽しみを身につけ、サイエンスリテラシーを高め合うことに寄与するコミュニケーションである。それはまた、文科と理科の垣根を超えた知の交流でもある。そのためのツールやスキルを学ぶと同時に、さまざまな社会問題についての議論の深め方について試行する。

<到達目標/Goals,Aims>

サイエンスコミュニケーションのマインドとスキルを磨き、異分野融合への意欲を高める。

<担当者からのメッセージ/Message>

学部サイエンスコミュニケーター養成副専攻を履修済みであることが望ましいが、未履修者でも受講可。多様な分野からの受講者を歓迎する。

なお、サイエンスコミュニケーション特論Ⅰ・Ⅱはセットで登録すること。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

70

31600117-000 専攻共通特殊講義（資源・エネルギー学） 講義 京田辺 春 金・3 日本語

理工学研究科 数理環境科学専攻 後藤 琢也

<概要/Course Content Summary>

人類の生活に不可欠な資源とエネルギーについて、我々の生活における実例を交えつつ、時には基礎科学（物理学、熱力学、物理化学等）を用いて説明する。また、エントロピーなどの資源・エネルギーを説明する際に欠かせない概念は、蒸気機関の発展とともに生まれるなど、技術史とリンクさせながら資源、エネルギー学の発展の歴史的経緯について学ぶ。さらに、現在の資源エネルギー学が、宇宙開発や地球での環境問題解決にヒントを与えるきわめて広範に適応可能であることについても概説する。

<到達目標/Goals,Aims>

物理や物理化学の知識の運用方法の一端が身につく。物事を考える際にその起源または歴史的経緯から考えることの重要性が身につく。

<担当者からのメッセージ/Message>

資源エネルギー学とは何かを知りたい学生、宇宙開発や環境問題を理解したい学生。学部で物理化学や物理学を学んだことがなくても、受講中に物理化学の基礎的概念や用語等を理解しようとする意欲を持っていること。複雑な現象を分割し簡潔に理解しようとすることに意欲を持っている学生。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 10名

71

31600113-000 専攻共通特殊講義（リスクマネジメント） 講義 京田辺 春 水・4/水・5 日本語

理工学研究科 機械工学専攻 田中 達也, 毛利 正

<概要/Course Content Summary>

機械工学専攻主任が科目代表となり、学外の専門家および企業等の実務者の講演で構成し、それぞれの分野・業界における最新の安全技術、技術者倫理、リスク管理等を修学する。

なお、企業における各種の安全/安心技術に関する事例紹介の「イブニングセミナー」本科目の中で実施する。（春学期・秋学期にそれぞれ1～2回、夕刻に実施）

<到達目標/Goals,Aims>

1. 安全確保の重要性を認識するとともに、高い技術者倫理を身に付けることができる。
2. 安全確保のためのシステム（リスクマネジメントなど）を学ぶことができる。
3. 安全確保に関わる法律・規則、規格・規準を学ぶとともに、安全確保の限界も知ることができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

文化情報学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理科学研究科、脳科学研究科の修士課程1年生を対象とする。理工学研究科の機械工学専攻で2018年度から開始した「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム 安全安心のための課題解決力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人養成プログラム」の1科目で、産業界で広く要求されている安全工学、リスクマネジメントを主要な内容とするが、特に理工学系の専門知識は必要なく、文理融合的な視野から、実際の企業、産業界での問題をなどを広く学びたい学生に履修してほしい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 20名

72

31600114-000 専攻共通特殊講義（安全工学Ⅰ） 講義 京田辺 秋 月・5 日本語

理工学研究科 機械工学専攻 毛利 正, 木村 共孝, 牛田 和彦

<概要/Course Content Summary>

現在、各種の産業分野において、様々な製品事故やコンプライアンス違反などが散見される。一方、ベテラン技術者の不足や設計者の経験不足も顕在化しつつあり、現場での危険予知、リスク回避能力を持った人材育成が望まれている。このような背景のもと、高度な安全性を維持し、安心なものづくりを進め、世界的競争力を維持・発展させるための安全・安心設計の素養を履修することを目的としている。

本科目では、情報、電気電子、機械分野の教員による各種安全技術に関するリレー講義により、理工学全般の技術と社会安全について学修する。安全・安心を確保した機械・構造物の設計には、各工学分野の基礎を十分理解した上で先端の設計システムに精通した技術者と、環境面での安全にも精通した研究開発者が望まれる。我が国はものづくりによって支えられており、製品の多くは海外に輸出される。このとき、国際標準に沿った機械の安全・安心設計ができる人材が必要となる。

<到達目標/Goals,Aims>

フェイルセーフ、情報セキュリティ、防災システム、電気事故、電気火災、電化製品の安全基準、PSE、工作機械/加工の安全、機械制御の安全、故障予知、建設、エネルギーなどの各工学分野での安全技術の概要を身につけること。

<担当者からのメッセージ/Message>

文化情報学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理科学研究科、脳科学研究科の修士課程1年次生を対象とする。理工学研究科の機械工学専攻で2018年度から開始した「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム 安全安心のための課題解決力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人養成プログラム」の1科目で、産業界で広く要求されている安全工学、リスクマネジメントを主要内容とするが、特に理工学系の専門知識は必要なく、文理融合的な視野から、実際の企業、産業界での問題をなどを広く学びたい学生に履修してほしい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 20名

73

31600115-000 専攻共通特殊講義（安全工学2） 講義 京田辺 秋 金・5 日本語

理工学研究科 機械工学専攻 毛利 正、赤尾 聡史、堤 浩之、佐藤 謙宣

<概要/Course Content Summary>

現在、各種の産業分野において、様々な製品事故やコンプライアンス違反などが散見される。一方、ベテラン技術者の不足や設計者の経験不足も顕在化しつつあり、現場での危険予知、リスク回避能力を持った人材育成が望まれている。このような背景のもと、高度な安全性を維持し、安心なものづくりを進め、世界的競争力を維持・発展させるための安全・安心設計の素養を履修することを目的としている。

本科目では、機械・化学・環境分野の教員による各種安全技術に関するリレー講義により、理工学全般の技術と社会安全について学修する。安全・安心を確保した機械・構造物の設計には、各工学分野の基礎を十分に理解した上で、先端の設計システムに精通した技術者と、環境面での安全にも精通した研究開発者が望まれる。我が国はものづくりによって支えられており、製品の多くは海外に輸出される。このとき、国際標準に沿った機械の安全・安心設計ができる人材が必要となる。

<到達目標/Goals,Aims>

化学物質のリスク、安全管理、薬品の安全性、食の安全、REACH規制、環境リスク、環境マネジメント、ISO14000、都市災害、生態リスクなどの各工学分野での安全技術の概要を身につけること。

<担当者からのメッセージ/Message>

文化情報学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理科学研究科、脳科学研究科の修士課程1年次生を対象とする。理工学研究科の機械工学専攻で2018年度から開始した「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム 安全安心のための課題解決力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人養成プログラム」の1科目で、産業界で広く要求されている安全工学、リスクマネジメントを主要内容とするが、特に理工学系の専門知識は必要なく、文理融合的な視野から、実際の企業、産業界での問題をなどを広く学びたい学生に履修してほしい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 20名

74

31600116-000 専攻共通特殊講義（安全安心実習） 実習 京田辺 秋 集中 日本語

理工学研究科 機械工学専攻 毛利 正、関田 隆一、田中 達也

<概要/Course Content Summary>

国内外での企業等で「インターンシップ」（原則として5日以上）を実施し、安全にかかわる知識等の具体的必要性を体得します。インターンシップ活動を行った年度の終わりには、獲得した安全関連技術の知識を活用し、報告会でその活動結果を発表するとともに、報告書を作成して、これを公表します。

<到達目標/Goals,Aims>

インターンシップ先でKY（危険予知）活動、生産現場での安全維持、製品開発に伴う安全確保などについて体験に基づき、役に立つ知識を備え、安全・安心な機械の設計ができる技術者を育成します。

<担当者からのメッセージ/Message>

文化情報学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理科学研究科、脳科学研究科の修士課程1年次生を対象とする。理工学研究科の機械工学専攻で2018年度から開始した「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム 安全安心のための課題解決力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人養成プログラム」の1科目で、産業界で広く要求されている安全工学、リスクマネジメントを主要内容とするが、特に理工学系の専門知識は必要なく、文理融合的な視野から、実際の企業、産業界での問題をなどを広く学びたい学生に履修してほしい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 20名

75

31420009-000 医用画像システム特論 講義 京田辺 秋 木・3 日本語

生命医科学研究科 医工学・医情報学専攻 医情報学コース 秋山 いわき

<概要/Course Content Summary>

現在の臨床診断で用いられている医用画像の種々のモダリティの基礎を学ぶ。画像処理の基礎から始まって、2次元フーリエ変換、シフトインバリエントシステム、ラドン変換、核磁気共鳴イメージング（MRI）、超音波イメージングについて説明する。最近のトピクスも含めて講義する。

<到達目標/Goals,Aims>

イメージングの原理を数式で理解するだけでなく MATLAB によるプログラミングも交えて理解の補助とする。

<担当者からのメッセージ/Message>

フーリエ変換、電磁気学、電気回路の基礎知識が必要。受講には MATLAB をインストールしたパソコンが必要。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

76

31511041-000 身体運動制御論特講 講義 京田辺 春 金・4 日本語

スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 上林 清孝

<概要/Course Content Summary >

ヒトの身体運動は筋収縮によって引き起こされるが、その収縮は運動ニューロンが興奮することで生じる。本講義では、運動ニューロンの興奮に関わる脳神経システムを学び、身体運動を生み出す神経生理学的メカニズムを理解する。また、どのような機序で身体動作が洗練されるのか、運動学習の神経基盤や運動機能障害後の回復機序についても学習する。

<到達目標/Goals,Aims>

ヒトの身体運動を生み出す脳・脊髄システムを説明できるようになる。運動学習に関わる神経基盤を説明できるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

受講者は神経生理学の基礎知識を有していることが望ましい。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名

77

31511011-000 スポーツ心理学特講 講義 京田辺 春 金・5 日本語

スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 石倉 忠夫

<概要/Course Content Summary >

スポーツ心理学特講はスポーツ心理学研究領域における競技場面への応用研究領域に焦点をあてるのではなく、運動学習・制御やスポーツ心理学における各理論ならびに基礎研究を中心に触れるとともに、スポーツ心理学に関する研究の問題発見や問題解決能力育成の礎になることをねらいとする。取り扱う内容としては運動学習・制御、心理的状態と運動パフォーマンスとの関わり、動機づけと運動行動等を中心にディスカッションを交えながら講義を展開していくこととする。

<到達目標/Goals,Aims>

学部で得た理論的背景を確認するとともに、最新の文献からの知見を学び、さらにこの領域における知識や思考能力をより高度なものにすることができる。

<担当者からのメッセージ/Message>

多角的な視点でスポーツと心理の関係を議論できることを期待します。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 3名

78

31511035-000 スポーツ運動学特講 講義 京田辺 春 木・3 日本語

スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 田附 俊一

<概要/Course Content Summary >

「コツ」や「カン」の習得をスポーツ運動学の観点から学習する。スポーツ運動学に関する概要と基礎的な知見を学び、人が目指すスポーツ運動や技能の発生に関わる理論と実践、それによる影響などを俯瞰する能力を身につけることを目的とする。さらに、その教育的意義、人生における意義などを学習する。

<到達目標/Goals,Aims>

スポーツ、身体運動、からだに関する「コツ」や「カン」の習得について、量的観点ではなく、人生における価値や意味の質的観点から、スポーツ科学に加え、伝統芸能などを含む様々なアプローチにより論理的・実践的に発信できるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

対象学生に制限を設けません。スポーツや身体運動、からだについて哲学や芸術、伝統芸能、教育など、様々な視点で議論し考えを深めたい学生さんであれば、大歓迎です。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

79

52101003-000 研究安全と倫理 講義 京田辺 春 月・2 日本語

脳科学研究科 発達加齢脳専攻 高橋 晋, 正水 芳人, 松井 鉄平, 金子 奈穂子

<概要/Course Content Summary >

科学研究の遂行に際して求められる安全と倫理について、多様な視点から総合的に学ぶ。実験に伴う一般的な危機管理に加え、生物実験に特有の規則や生命倫理等について広く知ることにより、脳科学が直面する諸問題について学習する。

<到達目標/Goals,Aims>

近年の研究手技の進展に伴い、科学実験の遂行に際して求められる知識はより多様なものになっている。実験に伴う怪我や火事といった一般的な危機管理に加え、「動物実験」「遺伝子組み換え実験」「ヒトゲノム・遺伝子解析」「病原体管理」「放射線同位元素取り扱い」など特有な生物実験に際して遵守すべき規則と、倫理、自他への危険性に対応を学ぶ。科学の可能性と限界、文化における科学の位置、生命倫理について学び、社会の中で科学が現在直面している問題、将来発生することが予想される問題について自分で考えることができるようになる。

<担当者からのメッセージ/Message>

脳科学研究のための実験において、遵守すべき規則と、生じ得る倫理的問題について学びたい学生。双方向性に議論しながら授業を進めるため、実際に生物実験をおこなっている学生が望ましいが、必須ではない。

<他研究科生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 5名まで

80

52101141-000 赤ちゃんを科学する 講義 京田辺 秋 金・3 日本語

脳科学研究科 発達加齢脳専攻 元山 純, 板倉 昭二, 嶋田 容子

<概要/Course Content Summary >

赤ちゃんは、自発的に環境とかかわり環境に働きかけながら適応的に生きている。本授業では、赤ちゃんの心や体の発達について、多様な領域から科学的に実証されたエビデンスをもとに、ヒトの成り立ちの過程として理解することを目標とする。この目

標を達成するために、学内外から、発生、脳科学、発達科学、VR心理学、モラル発達科学、エージェンシー知覚論等を専門とする学内外の講師9名がリレー形式で講義する。

<到達目標/Goals,Aims>

赤ちゃんを科学的に研究する方法を理解し、実際の実験方法を考案できるようになる。また、赤ちゃん学の本質および目標とするところを理解し、教育や保育および養育に資する赤ちゃん学の貢献の仕方を提案できる。

<担当者からのメッセージ/Message>

赤ちゃんの心や体の発達について、多様な領域から科学的に実証されたエビデンスをもとに、ヒトの成り立ちの過程として理解することを希望する学生、複数の分野からのアプローチによる問題解決に興味があり、問題に関する議論に積極的に参加する学生を期待する。

<他研究生登録制限人数/ Upper limit of students per class> 制限なし

【アドバンスト・リベラルアーツ科目群】※全大学院生が履修可能

アドバンスト・リベラルアーツ科目群は、大学院で身につけた専門性を社会の現場でより活かせるように、大学院生に相応しい基盤的な能力を、専門性とは別の視点から身につけることができるよう設計した科目の集まりです。本科目群は、未来の社会の諸課題に対して、普遍的な見方から全体像を捉える能力（俯瞰力）、複数の専門知を組み合わせながらアプローチできる能力（総合力）、未来の社会を読み解く視座（創造力）、良心を支柱に未来の社会のあり方を模索する能力（提案力）を意識的に身にまとい、諸課題に対して「専門外の補助線」を引き、本質を捉え新たな課題を探り、常に挑戦する姿勢の涵養を目的とするものです。

開講科目は、大学院教育プログラムである下記3つのプログラムが提供します。

- ・博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下、GRM）
- ・研究科横断副専攻プログラム「Comm 5.0 - AI・データサイエンス副専攻プログラム」（以下、Comm 5.0）
- ・「次の環境」協創コース（以下、次の環境）

科目の詳細については、関連するプログラムの履修要項、シラバスを確認して下さい。

<開講科目>

- 35650600-000 On-site Group Work Introduction （今出川，春学期，GRM 提供科目）
- 35650601-000 On-site Group Work （今出川，春学期，GRM 提供科目）
- 35650611-000 Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity
（インターネット，春学期，GRM 提供科目）
- 35650621-000 Mathematics and Physics as Liberal Arts （インターネット，春学期，GRM 提供科目）
- 35650622-000 Infrastructure Design for Human Communities
（インターネット，秋学期，GRM 提供科目）
- 35650623-000 Environmental Earth Science as Liberal Arts （今出川，秋学期，GRM 提供科目）
- 35650624-000 Global Resource Management: Interdisciplinary Approach I
（インターネット，春学期，GRM 提供科目）
- 35650625-000 Global Resource Management and Sustainable Development Goals I
（今出川，春学期，GRM 提供科目）
- 35650631-000 Global Resource Management and International Relations
（インターネット，春学期，GRM 提供科目）
- 35650632-000 Research Methods of Social Sciences （インターネット，秋学期，GRM 提供科目）
- 35650633-000 Global Society in the Modern World （今出川，秋学期，GRM 提供科目）
- 35650634-000 Global Resource Management: Interdisciplinary Approach2
（インターネット，秋学期，GRM 提供科目）
- 35650635-000 Global Resource Management and Sustainable Development Goals2
（今出川，秋学期，GRM 提供科目）
- 35650641-000 GRM Topics 1-Natural Hazards and Disaster Management-
（今出川，春学期，GRM 提供科目）
- 35650642-000 GRM Topics 2-Topics in Mathematics for Information and Data Sciences -
（今出川，春学期，GRM 提供科目）
- 35650643-000 Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works
（今出川，春学期，GRM 提供科目）

		(今出川, 春学期, GRM 提供科目)
35650644-000	Introductory Laboratory of Infrastructures	(京田辺, 春学期, GRM 提供科目)
35650651-000	Seminar for Advanced Liberal Arts	(今出川, 秋学期, GRM 提供科目)
35620613-000	科学と良心	(京田辺, 春学期, Comm 5.0, 次の環境 提供科目)
35620613-001	科学と良心	(今出川, 春学期, Comm 5.0, 次の環境 提供科目)
35620614-000	心理環境科学特論	(京田辺, 秋学期, Comm 5.0, 次の環境 提供科目)
35620615-000	セルフアウェアネス (コーチング入門)	(京田辺, 秋学期, Comm 5.0 提供科目)
35620615-001	セルフアウェアネス (コーチング入門)	(今出川, 秋学期, Comm 5.0 提供科目)
35620617-000	AI 情報倫理特論	(京田辺, 秋学期, Comm 5.0 提供科目)
35620617-001	AI 情報倫理特論	(今出川, 秋学期, Comm 5.0 提供科目)
35620621-000	統計基礎	(インターネット, 秋学期, Comm 5.0 提供科目)
35620625-000	プログラミング入門	(インターネット, 春学期, Comm 5.0 提供科目)
35620622-000	プログラミング基礎	(京田辺, 春学期, Comm 5.0 提供科目)
35620626-001	大阪大学大学院単位互換科目: データ科学特論 I	(インターネット, Comm 5.0 提供科目)
35620626-003	大阪大学大学院単位互換科目: 数理特論 II	(インターネット, Comm 5.0 提供科目)
35620626-004	大阪大学大学院単位互換科目: 統計的推測	(インターネット, Comm 5.0 提供科目)
35630617-000	環境リテラシーのための文学特論	(今出川, 秋学期, 次の環境 提供科目)
35630617-001	環境リテラシーのための文学特論	(京田辺, 秋学期, 次の環境 提供科目)
35630618-000	企業経営と良心	(今出川, 秋学期, 次の環境 提供科目)
35630625-000	現代世界を読み解くためのリテラシー	(今出川, 春学期, 次の環境 提供科目)
35630626-000	国際紛争と調停の理論と実践	(今出川, 秋学期, 次の環境 提供科目)
35630656-000	エコロジー経済学と良心	(今出川, 春学期, 次の環境 提供科目)
35630657-000	「次の環境」特別講義	(京田辺, 秋学期, 次の環境 提供科目)
35620654-000	SDGs のための知的研究開発手法	(京田辺, 秋学期, Comm 5.0, 次の環境 提供科目)
35620652-000	フューチャーデザイン演習	(京田辺, 秋学期, Comm 5.0, 次の環境 提供科目)
35620652-001	フューチャーデザイン演習	(今出川, 秋学期, Comm 5.0, 次の環境 提供科目)
35620659-000	AI ビジネス実践論	(京田辺, 秋学期, Comm 5.0 提供科目)